

年報
2023 年度



東京医療保健大学 立川看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Tachikawa Faculty of Nursing

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部（災害看護学コース）

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing
(Disaster Nursing Program)

2023 年度 年報

目次

卷頭言	・ ・ ・ ・ ・	1
1. 組織図	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 学内行事	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 入試状況	・ ・ ・ ・ ・	8
4. 教職員名簿	・ ・ ・ ・ ・	11
5. 委員会活動	・ ・ ・ ・ ・	13
6. 教育活動	・ ・ ・ ・ ・	19
7. 業績	・ ・ ・ ・ ・	47

巻頭言

2023年度をもって立川看護学部は完成年度を迎えた。2020年4月に改組による開学以来、2つの学部のカリキュラムの運営をはかり、また新カリキュラムでの運営も含め、それぞれのディプロマポリシー到達に向けた教育体制に沿って教職員に尽力いただいたことに感謝申し上げる。加えて、開学当初から長期にわたった新型コロナウイルス感染症の対応においては、学生の不安が増さないように細やかな支援策を講じ、学習計画のサポートや教授方法などを工夫し、パンデミックから経過4年目の今年にあつては日常の感染対策を実施しつつ、平常の学修環境へ戻した教育活動を図るといった柔軟な対応により、混乱をきたすことなく完結している。

さて、学習者主体の教育を推進するにあたり、昨年度より教学マネジメントにおける課題を検討し、具体的な取り組みを行ってきた。今年度は、学習内容・成果の可視化として、カリキュラムツリーとマップを完成し、学生への説明を新年度ガイダンスで行い、各授業においてディプロマポリシー到達に向けて提示しながら説明し、学修の過程が学生にとってより分かりやすいように示してきた。同時に、LMSの推進において、WebClassを通じた授業展開、試験の実施まで進められている。また、看護過程の展開を要する演習や実習では記録の電子化を図り、学生の記録も教員の指導記録も電子化の中で完結し、学生の看護技術到達度も同システムの中で可視化されポートフォリオとして活用できるまでになった。これは全実習施設にご協力を頂いたことで短期間に取り組むことができた。

学習内容においては、学生の主体的な学びを促すために、Virtual Realityを用いた教材（以下、VR教材）開発を行い、災害看護学、医療安全学、成人看護学実習、ヘルスアセスメントの授業において活用した。リアルな医療現場を学習環境として教員と学生が共有できる事や、学生の臨場感が強く、自分事として捉え考えていくことができるなど効果がみられ、学術集会でも報告している。また、立川看護学部の特徴である副専攻「災害看護学コース」において、汎用的技能と統合的学習として、4年次生災害看護学実習で地震災害時の初動を取り入れた。災害看護学Ⅲまでの知識を整理し、指導者のもと、病棟の一員としての発災時の行動から災害対策本部への報告に至るまでの過程と災害対策本部の一員として報告を受けて指示を判断する過程に挑戦した。災害医療センターの手厚い支援があり実施できたことは常日頃の連携の強さに他ならない。立川看護学部一期卒業生全員が副専攻修了証書を手にした。

研究並びに社会貢献の面では、今年度も多数の学術集会で発表や参加がなされた。学生の卒業研究においても学会での発表が増えてきており、論文投稿につなげていくことを期待する。

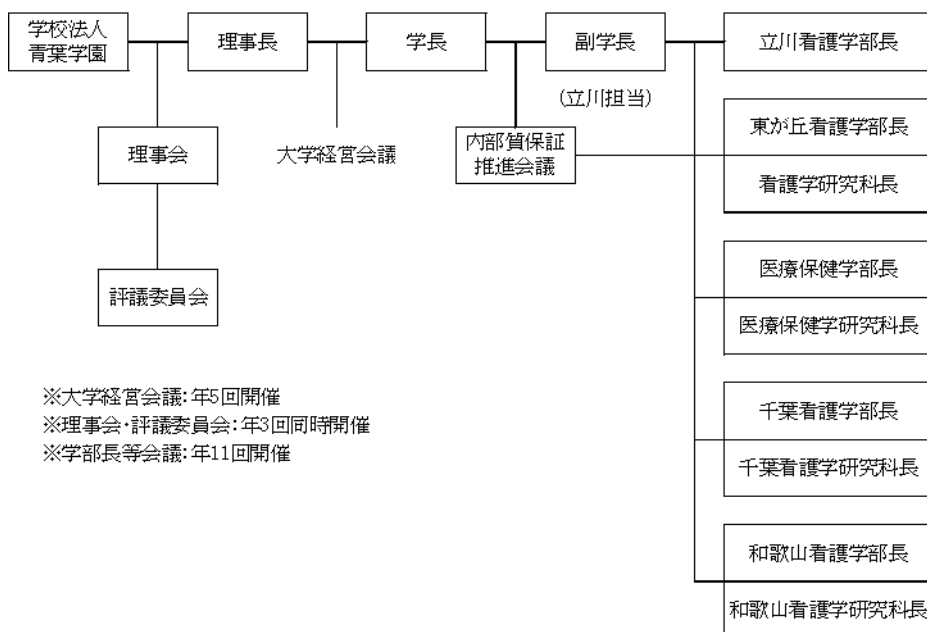
次年度も引き続き中期計画に基づいて確実に行動していくこと、学生とともに学修者主体の学び作りに向けて努力していく。

令和6年4月8日

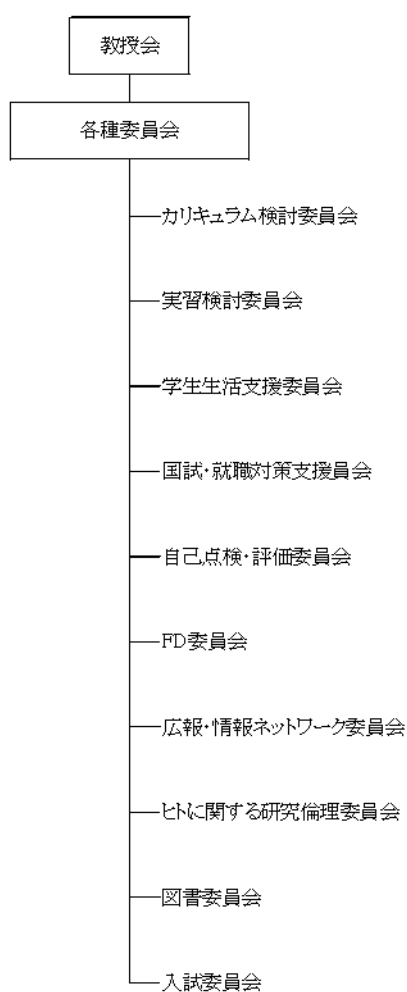
立川看護学部 学部長

長 田 恵 子

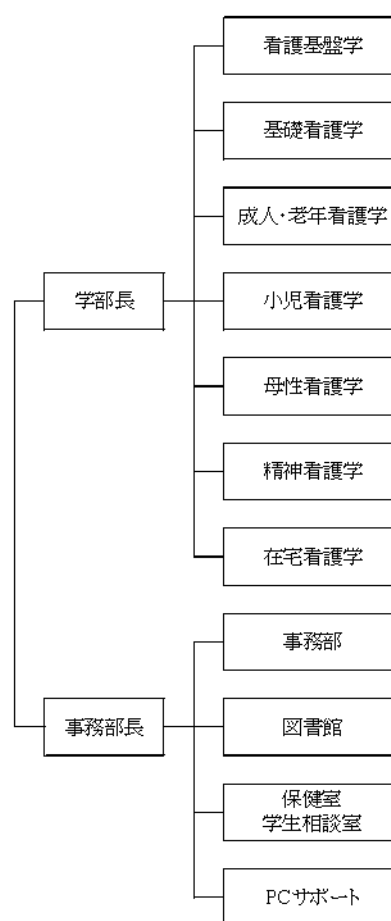
1.組織図



立川看護学部の運営組織



【教員組織】



2. 学内行事

2-1. 学年暦

【 前 期 】

4 月

- 3 日 校内オリエンテーション(～6 日)、新入生
ガイダンス
- 4 日 入学式 健康診断
- 6 日 前期セメスター授業開始
- 27 日 新入生合同研修(～4/28)

5 月

- 8 日 在宅看護学実習(～6/30)
- 29 日 看護学体験実習(～6/2)

6 月

- 9 日 スポーツ大会
- 12 日 看護過程展開実習(～6/30)
- 25 日 オープンキャンパス

7 月

- 10 日 看護学統合実習(～7/21)
- 24 日 災害看護学実習(～27 日)

8 月

- 3 日 看護学統合実習(7 日)
- 6 日 来校型 学科見学会
- 17 日 各論実習－母性看護学実習等
(～R3/2/5)
- 20 日 オープンキャンパス
- 25 日 夏季休業開始(～9/30 まで)

9 月

- 1 日 災害訓練(災害看護学実習)
- 10 日 入試説明会(総合型選抜)
- 21 日 公開講座(立川市と共催)

【 後 期 】

10 月

- 1 日 後期セメスター授業開始
入試説明会(学校推薦型選抜)
- 15 日 総合型入学試験

11 月

- 4 日 医愛祭(～11/5)
- 12 日 学校推薦型入学試験(指定校・公募制)
- 12 日 学科見学会
- 27 日 個別見学会
- 30 日 老年看護学実習(～12/11)

12 月

- 1 日 開学記念日
- 7 日 WEB 入試説明会
(一般選抜入試説明会～R6/2/16)
- 13 日 卒業生との懇談会
- 18 日 学科見学会
- 29 日 冬季休業開始(～R6/1/3)

1 月

- 23 日 一般選抜入学試験(A 日程)(1 日目)
- 24 日 一般選抜入学試験(A 日程)(2 日目)
- 27 日 災害訓練(中止)

2 月

- 2 日 看護師国家試験壮行会
- 4 日 一般選抜入学試験(B 日程)
- 5 日 日常生活援助展開実習(～2/16)
- 6 日 就職支援講座(～2/7)
- 11 日 看護師国家試験日
- 18 日 一般選抜入学試験(C 日程)

3 月

- 17 日 オープンキャンパス
- 18 日 学位記授与式・修了式

2-2. 6月のオープンキャンパス

【概要】

本学部の情報と 2023 年度および 2024 年度の入試に関する最新情報を提供することを目的に開催した。事前予約制として参加者人数を制限し、感染対策を徹底した。

来場者数は、189 組であった。

【日程】

2023 年 6 月 25 日(日)9:30～16:00

【プログラム】

Part1:「立川看護学部を知ろう！」

- ・学部長挨拶
- ・学部学科紹介・説明
- ・在学生メッセージ
- ・入試説明

Part2:「立川看護学部を体験しよう！」

- ・講義を体験しよう！「成人看護学概論:AYA(若者世代)の特徴とは」
- ・演習を体験しよう！「成人・老年看護実践論:VR、シナリオによる看護実践演習」
- ・先輩や先生に聞いてみよう！（個別相談）
- ・自由にキャンパスをみてみよう！

2-3. 8月 夏のオープンキャンパス

【概要】

本学部に関心のある高校1年生から3年生に広く本学部を紹介するために、参加者体験型のオープンキャンパスを開催した。豊富で多様な企画により、参加者が模擬授業や模擬演習を体験したり、在校生と交流したりして、本学部の使命、特徴、学びを知ることができることを目指した。

来場者数は、253 組であった。

【日程】

2023 年 8 月 20 日(日)9:30～16:00

【プログラム】

Part1:「立川看護学部を知ろう！」

- ・学長挨拶
- ・学部長挨拶
- ・学部学科紹介・説明
- ・在学生メッセージ
- ・入試説明

Part2:「立川看護学部を体験しよう！」

- ・講義を体験しよう！「災害看護論」
- ・小児看護を体験しよう！「子どもの看護を体験しよう」
- ・精神看護を体験しよう！「こころを元気に一ストレスハンドマッサージ体験—」
- ・演習を体験しよう！「感染から医療現場を守る PPE に挑戦」
- ・サークルを体験しよう！「災害救護を知ろう、体験してみよう」
- ・先輩や先生に聞いてみよう！「聞きたいことを何でも聞いてください」(個別相談)
- ・自由にキャンパスを見てみよう！

2-4. 入試説明会

【概要】

本学部の総合型選抜、学校推薦型選抜試験の受験を希望する高校生に向けて、これらに関する入試情報を提供することを目的に開催した。

【日程】

総合型選抜入試説明会

・2023 年 9 月 10 日(日)9:30 ～ 11:30 来場者数 84 組

学校推薦型選抜対策入試説明会

・2023 年 10 月 1 日(日)9:30 ～ 11:30 来場者数 46 組

【プログラム】

- ・学部学科紹介・説明
- ・2023 年度入試結果&2024 年度入試概要説明
- ・自己推薦書／小論文／事前課題レポート／面接のポイント
- ・学生体験談
- ・キャンパス
- ・個別相談

2-5. 学部学科見学会

【概要】

6月、8月のオープンキャンパスや入試説明会に参加できなかった高校生に、本学部と入試情報を提供することを目的に開催した。

【日程】

・2023 年 11 月 22 日(水) 16:30～17:30 参加者 14 組

・2023 年 12 月 18 日(月) 16:30～17:30 参加者 8 組

【プログラム】

- ・学部学科説明
- ・入試説明
- ・個別相談
- ・キャンパス見学(ガイド制)

2-6. WEB 入試説明会～一般選抜～(首都圏)

【概要】

東京医療保健大学全体で行う一般選抜受験を希望する高校3年生、2年生者向けの入試説明会として、WEB で実施した。

【公開日時】

2023 年 12 月 8 日(金)12:00～2024 年 2 月 16 日(金)22:00 閲覧数 190 人

【プログラム】

- ・学部学科説明(動画)
- ・学生メッセージ(動画)

2-7. 3 月 春のオープンキャンパス

【概要】

看護に関心のある高校生、進路を決めかねている新2年生、新3年生の高校生へ、看護とこれを目指す人材を育成する本学部の方針や教育内容を紹介することを目的に開催した。

【日程】

2024 年 3 月 17 日(日) 9:30～16:00 参加者 91 組

【プログラム】

Part1:「立川看護学部を知ろう！」

- ・学部長挨拶
- ・学部学科説明
- ・在学生メッセージ
- ・入試説明

Part2:「立川看護学部を体験しよう！」

- ・講義を体験しよう！「看護の魅力とは」
- ・演習を体験しよう！「バイタルサイン測定&初心者向け VR」
- ・先輩や先生に聞いてみよう！（個別相談）
- ・自由にキャンパスをみてみよう！

2-8. 公開講座(立川市と共催)等の開催(FD 企画を含む)

- ① 2023 年 6 月 21 日(月)16:30 ～ 17:30 第二別館 2 階 T2201 or Zoom
 - 対象者:全教職員
 - テーマ:「変革に時代に適応するための急性期病院の取り組み・課題」
 - 講師:亀山周二学長:東京医療保健大学(前 NTT 東日本関東病院 院長)
 - 場所:第二別館 2 階 T2201 or Zoom

- ② 2023 年 8 月 26 日 (月) 10:00 ～ 15:00 T2101 教室
 - プログラム:夏休みの企画:「アロマを使った石鹸づくり」
 - 対象者:小学生と保護者 30 名限定

- ③ 2023 年 12 月 16 日(日) 10:00 ～ 12:00 TM102 教室
 - 対象者:18 歳以上の方(来場は 50 名程度)
 - テーマ:「悩みってどうきくの? 悩みに聞き方を学びましょう!」
 - 講師:村松 仁 :東京医療保健大学 教授
小川 賀恵 :東京医療保健大学 講師
 - 形式:対面(31 名参加)

2-9. 学友会活動

1)スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が 6 月 9 日(金)に、駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館で開催された。今年は 4 年ぶりに朝から夕方まで昼食付の全日スケジュールで行い、各キャンパスから合計 197 名が参加した。

2)大学祭(医愛祭)

第 17 回大学祭(首都圏キャンパス)を 11 月 4 日(土)・5 日(日)に世田谷キャンパスで開催しました。今年のテーマは「和」でした。当日は両日、天候にも恵まれて、地域の方々もたくさん来学いただきました。

来場者は 1 日目に 114 名、2 日目には 74 名の計 188 名であった。

3. 入試状況

3-1. 2024 年度入学者選抜状況

概 要

立川看護学部看護学科については、入学者選抜の概略は以下のとおりである。

(2024 年 2 月 29 日現在)

○立川看護学部		※ ()は、昨年度の実績											
試験区分	試験日	定員④		志願者数⑤		受験者数⑥		競争倍率 ⑥/⑤		合格者数⑦		入学予定者数	
10月総合型選抜	10月15日(日)	(-) 8		(-) 88		(-) 88		(-) 4.2		(-) 21		(-) 21	
学校推薦型選抜 (指定校)	11月12日(日)	(20) 15		(23) 25		(23) 25		(1.0) 1.0		(23) 25		(23) 24	
学校推薦型選抜 (公募制)	11月12日(日)	(23) 23		(50) 50		(50) 50		(1.3) 1.9		(39) 26		(39) 26	
小計		(43) 46		(73) 163		(73) 163		(1.2) 2.3		(62) 72		(62) 71	
大学入学共通テスト 利用入試(前期)	1月13日(土) 14日(日)	(7) 7		(145) 80		(145) 80		(3.5) 2.4		(42) 33		(0) 2	
一般選抜A日程入試①	1月23日(火)	(15) 23		(155) 119		(152) 117		(2.4) 3.4		(64) 34		(33) 10	
一般選抜A日程入試②	1月24日(水)			(-) 82		(-) 80		(-) 3.0		(-) 27		(-) 15	
一般選抜B日程入試	2月4日(日)	(25) 20		(193) 126		(150) 97		(2.8) 2.9		(54) 33		(18) 11	
一般選抜C日程入試	2月18日(日)	(10) 4		(50) 31		(37) 19		(3.7) 4.8		(10) 4		(4) 1	
大学入学共通テスト 利用入試(後期)	1月13日(土) 14日(日)	若干 名	若干 名	(4)		(4)		(4.0)		(1)		(0)	
小計		(57) 54		(547) 438		(488) 393		(2.9) 3.0		(171) 131		(55) 39	
合計		(100) 100		(620) 601		(561) 556		(2.4) 2.7		(233) 203		(117) 110	

○ 推薦入試

1) 総合型選抜

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

2024 年 3 月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、

3 年次 1 学期または 3 年次前期までの調査書を提出できる者

(2) 選抜方法

事前課題レポート・自己推薦書・面接を総合的に評価し選抜した

○ 学校推薦型選抜

1) 指定校推薦

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2024 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3.8以上の者

(2) 選抜方法

調査書(点)・総合問題(点)・面接(点)を総合的に評価し選抜した

2) 公募制推薦

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2024 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3.5以上の者

(2) 選抜方法

総合問題(点)・面接(点)・調査書(点)を総合的に評価し選抜した。

注: 来年度以降の立川看護学部における学校推薦型選抜の選考方法について、一部変更する。

小論文(100 点)・面接(30 点)・調査書(20 点)を総合的に評価する

○ 一般選抜型入試

1) 一般入学試験 A 日程

(1) 試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、
生物基礎・化学基礎の4科目から1科目選択(100 点)

2) 一般入学試験 (B 日程・C 日程)

B 日程

(1) 試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎の5科目から2科目選択(各 100 点)

C日程

(1)試験科目

必須科目 英語(100点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物

化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎の5科目から1科目選択(各100点)

調査書(14点)

3)大学入学共通テスト利用入学試験 前期・後期

(1)試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】(200点)

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学A、生物、化学、

生物基礎・化学基礎の5科目から2科目利用

(100点)

注:選択科目で3科目以上受験している場合は、高得点の2科目を採用

理科を2科目選択する場合は、「生物」「化学」の組合せのみ可

4. 教職員名簿(2023.4.1現在)

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
東	立川看護学部長	長田 恵子	副学長/教授	R 4.6.1 採用
	看護基盤学	土井 庄三郎	教授	R 5 .4.1 採用
		高木 晴良	准教授	H 26.4.1 採用
		堀田 昇吾	講師	H 25.7.1 採用
		三浦 由紀子	講師	H 28.4.1 採用
		大場 久美	助教	H 31.4.1 採用
	基礎看護学	松谷 弘子	教授	R 3.4.1 採用
		岩満 裕子	准教授	H 26.4.1 採用
		菅野 由貴子	講師	R 3.4.1 採用
		松山 妙子	講師	H29.4.1 採用
		大場 久美	助教	H 31.4.1 採用
		渡邊 はる美	助手	R 5.4.1 採用
		片岡 大己	助手	R 4.4.1 採用
	成人・老年看護学	青木 和恵	教授	R 2.4.1 採用
		内藤 亜由美	准教授	R 3.4.1 採用
		藤村 朗子	准教授	H 27.4.1 採用
		櫻井 敬子	講師	H 29.4.1 採用
		折元 美雪	講師	H 28.4.1 採用
		荻田 明子	助教	H 29.4.1 採用
		泥谷 朋子	助教	R 2.4.1 採用
		吉田 奈々絵	助手	R 5.4.1 採用
	小児看護学	久保 恭子	教授	H 28.4.1 採用
		宍戸 路佳	准教授	H 31.4.1 採用
		濱寄 信恵	助教	R 5.4.1 採用
	母性看護学	内田 貴峰	准教授	R 5.4.1 採用
		小平 明日香	講師	R 5.4.1 採用
		吉田 亜希子	助教	H 27.4.1 採用
	精神看護学	村松 仁	教授	H 31.4.1 採用
		小川 賀恵	講師	H 31.4.1 採用
		阿川 香苗	助教	R 5.4.1 採用
東	在宅看護学	テイラー 栄子	准教授	H 29.4.1 採用
東		岩渕 起江	講師	H 24.4.1 採用
		村田 加奈子	助教	R 2.4.1 採用

注:「東」は東が丘・立川看護学部専任、無印は立川看護学部と東が丘・立川看護学部の兼任

事務職員 役職 氏名

部長	富田 素
主任	井上 里美
主任	菊池 広訓
職員	細井 智世
図書館司書	町田 玲彦
図書館司書	長坂 由美
図書館司書	内田 節子
保健室	清水 容子
	知識 比呂美

5. 委員会活動

カリキュラム検討委員会

構成員

久保恭子（委員長）、青木和恵（副委員長）、長田恵子、松谷弘子、村松仁、
内田貴峰、穴戸路佳、高木晴良、藤村朗子、富田素、井上里美、知識比呂美

活動内容

教育の質向上を目指し年間実施計画に基づき活動を行った。2023年度は東が丘・立川看護学部カリキュラム、立川看護学部カリキュラム、立川看護学部新カリキュラムの3カリキュラムを運用した。成績評価は1～3年次生の進級、4年次生の卒業の判定について、進級要件および卒業要件に従い確認を行った。また、科目ナンバリング、新カリキュラムのマップとツリーの作成を行い、カリキュラム全体の総確認をし、新カリキュラムのDPに向けた学習の積み重ね状況を確認・整理し、学修の基盤強化、学年進行に伴う学修の積み重ねや科目のつながりを確認・修正した。学生が学習において困難を感じる科目等については2024年度より、初年次教育を開講し、学習のサポートを実施していくこととした。来年度のシラバスの作成では適正な記載方法の統一を図った。さらに、副専攻・災害看護コースでは、より総合的な災害に対応する実践力を強化すること、DXの推進の一環でVR教材の開発を行い、災害時特有のリアリティさを伴う状況判断力を養う教授方法の特徴を出し、産学連携並びに災害拠点病院や立川防災基地との連携により効果的な授業を展開していくこととした。

実習検討委員会

構成員

藤村朗子（委員長）、内田貴峰（副委員長）、穴戸路佳、岩渕起江、小川賀恵、松山妙子、三浦由紀子、荏田明子（事務部）富田素、内田智明

活動内容

本委員会は立川看護学部の教育の質向上に向け、看護学実習指導体制の整備に関する以下の活動を実施した。

1. 看護学実習計画

2024年度、2025年度の実習計画を策定した。

2. 看護学実習施設に対する説明会

6月22日（木）にハイブリット形式にて開催した。実習施設数19施設（対面：6施設、オンライン13施設）実習担当者48名、教員25名が出席した。第1部は学部長より求められている大学教育と課題～教学マネジメント、DX推進について～説明され、次いで委員よりポートフォリオ、実習記録の電子化（FESS）について説明した。第2部はDX・ICT推進担当よりVR教材の紹介と実習担当者にVR

体験の機会を設けた。

3. 看護学実習連携会議

12月11日(月)に主たる実習施設(3施設)との共催で、ハイブリット形式にて開催した。テーマをシームレスな教育体制の構築として各施設と大学でそれぞれ発表し、実習指導者と教員間でディスカッションを行った。また、実習施設と共同で第43回日本看護科学学会学術集会にて交流集会を実施した。

4. 看護技術経験表の集計

4年次生に調査を実施した。次年度は看護技術到達度の可視化に向けて取り組む。

5. 実習記録の標準化に向けた取り組み

実習記録のフォーマットを立案した。

学生生活支援委員会

構成員

村松 仁(委員長)、藤村朗子(副委員長)、岩淵起江、櫻井敬子、堀田昇吾、濱寄信恵、
泥谷朋子、渡邊はる美 事務部：富田 素、内田智明、清水容子(保健室)

活動内容

本委員会の担当業務として、コンタクトグループミーティングの企画運営、卒業関連事業への支援、保健室担当者との情報共有、学籍変更に関する対応を行った。コンタクトグループミーティングは4月と12月に実施し、約8割の学生が参加した。学生へのアンケートでは約8割以上が「交流が持てた」「情報共有ができた」との回答があり学生間の交流促進に役立ったと考えられた。次年度も引き続き、運営方法等を検討し、学生間の交流促進に寄与できる運営を考えている。

医愛際(11月4日、5日開催)では、学科企画として「災害・防災について考えよう」をテーマに、防災グッズ展示、新聞紙で作る避難所で使えるスリッパ・器作成、トリアージの紹介、立川看護学部の紹介を行い188名の来場者(学科企画のブース来場者)があり、災害について備えることの重要性を改めて感じたなどの意見が多く概ね好評であった。卒業関連事業への支援として同窓会委員の選出、卒業アルバム委員、卒業を祝う会委員を選出した。

国試・就職対策支援委員会

構成員

岩満裕子(委員長)、内藤亜由美(副委員長)、高木晴良、櫻井敬子、菅野由貴子、折元美雪、
阿川香苗、吉田亜希子、岩淵起江、濱寄信恵、富田素、内田智明、井上里美、細井智世

活動内容

目標は、「看護師国家試験全員合格」、「就職・進学率100%」を目指し、企画・実施した。
卒業生支援体制の構築。

1) 国試対策支援

1 年次・2 年次から国家試験を見据えた学習の意識づけを実施した。3 年次生には、国試前に購入していたレビューブックを実習時から活用できるように全員購入した。更に、模擬試験を3年後期に入れ、4 年次の4 月の模試で進捗状況を確認した。4 年次生には、6 月に必須QBを全員購入し、必須対策の強化を図った。模擬試験は7 回実施し、10 月の模擬試験で強化組20 名を選出して業者による補講を受講。補講の効果はあったと考える。

2) 就職対策支援

3 年次のガイダンス後から早めに就職活動を開始し、12 月の段階で、昨年より方向性を決めている学生が30名以上増えていた。就職支援講座は一定の評価は得ているが、就職活動が早まっており、早めの開催を検討していく必要あり。卒業生との懇談会は、学生が希望する病院の卒業生から情報を得られる場であり、継続。卒業後の支援を見据え、ホームカミングを実施したが、メールが届かない現状の問題があり、人海戦術で連絡をとり実施したが、参加者は少なかった。今後の継続が望まれる。

自己点検・評価委員会

構成員

高木晴良（委員長）、宍戸路佳（副委員長）、菅野由貴子、小平明日香、櫻井敬子、富田素、内田智明

活動内容

2023 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、2022 年度の年報を編集・作成し、WEB ページからアクセスできるように公開した。

http://www.thcu.ac.jp/faculty/tachikawa/pdf/index/tachikawa-annual_2022.pdf

FD 委員会

構成員

高木晴良（委員長）、藤村朗子（副委員長）、堀田昇吾、松山妙子、小川賀恵、立川事務部

活動内容

以下のFD企画を企画・開催した。

・FD 企画

【第1 回FD 企画】（参加者：全教員31 名＋職員2 名）

日 時：4 月5 日（水）16 時～18 時

講 師：長田 恵子 学部長

テーマ：東京医療保健大学立川看護学部の取り組み
— 教学マネジメントについて —

講 師：久保 恭子 カリキュラム委員長

テーマ：新カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの紹介

講 師：村松 仁 教授

テーマ：精神看護学実習におけるルーブリック評価について

講 師 : ICT ワーキンググループ 岩渕委員、宍戸委員
 テーマ : ルーブリック・e ポートフォリオの WebClass での設定方法
 ポートフォリオについて

【学長講話】 (参加者: 教員 28 名+職員 2 名)
 日 時 : 4 月 27 日 (木) 15 時~16 時
 講 師 : 亀山 周二 学長
 テーマ : 新年度にあたり

・オンデマンド FD 企画

回	テーマ
1	WebClass の使い方について(資料集+動画)
2	researchmap の登録方法(動画)
3	組織内の人材育成(動画)
4	SPSS の基礎(資料+動画)
5	統計ソフト(JMP)の使い方(資料+動画)

広報・情報ネットワーク検討委員会

構成員

青木和恵 (委員長)、テイラー栄子 (副委員長・前期)、小平明日香、泥谷朋子、片岡大己、
 吉田奈々絵、富田素、細井智世

活動内容

全学広報委員会の計画に基づき企画運営し、アドミッションポリシーに沿った人材の入学に繋げることを目的に以下の活動を行った。

- 1) オープンキャンパス: オープンキャンパス(OC)、入試説明会、学科説明会などを合わせ 8 回開催した。OC は「参加者授業体験型」とした。全参加者は高校生と保護者で 753 組約 1520 名であった。協力学生は 70 名以上で、教職員と共に実施した学部案内、模擬授業、在校生 Message、学生相談、キャンパス案内などが参加者のニーズに適し大変好評であった。
- 2) 2024 年版大学案内: 全体を通して新たな撮影や取材による学生、教員情報、本学部の特徴の災害看護に関する情報、実習病院との連携状況など、立川看護学部らしさをアピールする記事を豊富に掲載した。
- 3) 学報 KOKORO: 立川看護学部の代表的な学生を選出して取材し、本学部の学生らしさ、現代の看護学生らしさをアピールする記事を掲載した。
- 4) 出張講義: 3 回行った。要請のあった高校へ教員が出向き、看護の魅力と看護師へのプロセス、また看護技術の意味などを高校生に紹介した。
 これらの活動を通して、立川看護学部の良さと特徴を地域社会へ、また高校生やその家族に伝えることに努力した。

図書委員会

構成員

内田貴峰(委員長)、松谷弘子(副委員長)、村松 仁、荻田明子、大場久美、町田玲彦、
内田節子

活動内容

- 1) ZOOM 及びデスクネットでの回覧にて会議の実施：委員の所属地および議事内容を踏まえ、ZOOM 及びデスクネットでの回覧にて会議を実施し、効率的な委員会活動とした。
- 2) 図書館利用状況の把握：立川図書館における月次統計として、利用実績および契約データベースへのアクセス状況を月次報告として取りまとめ、教授会で報告した。
- 3) 図書館の開館時間、休館日の変更等を図書館ホームページ上で公開するなど、利用者、特に学生への利便性の向上を視野に入れた活動に勤めた。
- 4) 各領域から図書の購入希望をもとに図書の購入を行い、教育に必要な図書の整備・充実を行った。また、国試・就職対策支援委員会からの要望で、看護師国家試験問題集等の購入を行った。
- 5) 図書の除籍・廃棄：今年度は、立川看護学部在完成年度のため、実施しなかった。

入試委員会

構成員

構成員は非公開としている。

活動内容

立川看護学部の入学試験にかかる事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

国際交流委員会

構成員

松谷弘子(委員長)、内藤亜由美(副委員長)、三浦由紀子、吉田亜希子

活動内容

- 1) オーストラリア研修

【9月研修】

9月7日～15日の7日間のオンライン研修では、学生12名、教職員6名が参加した。立川看護学部から参加した学生は1年生2名である。事後アンケートでは、日豪の医療制度の違いやオーストラリアの看護の実践が理解でき、満足度も高かった。

【3月研修】

2024年3月に急遽、グリフィス大学との調整ができたため渡豪での開催となった。研修

期間は2024年3月11日～3月19日の9日間である。参加者は学生46名、教員7名である。立川看護学部からは2年生5名、3年生6名の計11名が参加する。この研修ではホームステイをしながらホームステイ先から公共交通機関などを使って通学といった現地での体験により学修を深めた。

2) ハワイ研修

COVID-19感染症対策、円安における研修費の高騰等により2023年度の研修は中止。

3) 中国燕山大学との研修

中国との研修は初めての取り組みであり、12月にオンラインにて実施した。立川看護学部からの参加者は2年生1名であった。

6. 教育活動

【看護基盤学領域】

教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみならず、学際的な広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。看護学以外の視点も重要視し、人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じる能力を有する看護師育成を目指している。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通じて、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

科目名

1) 自然科学の基礎:1年次前期

高木晴良、堀田昇吾

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。入学時点で、学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容を含むようにし、動画等を利用して理解しやすいように工夫した。また、学生には質問をミニレポートに記載してもらい、次回の講義時にその質問に答えるという形式で情報を共有し、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想されるため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指している。

来年度は入学直後の特別プログラムとして、数学と生物の講義を追加する予定である。

2) 医学概論:1 年次前期

土井庄三郎

良い看護師に成長するためには、そのベースとなる真の医学の姿とあるべき医療の姿を正しく捉えることが重要である。そのために医学とは何か、正しい医学・看護学を人々のために役立てる医療とはなにか、病気は人間に対しどのようなかわり合いを持ち、どのように診断され、治療され、予防されるべきかななどの問題の概要を理解できるよう、分かりやすく楽しい講義をモットーに行った。

到達目標としては、以下の5項目とした。

- 1、医学の本質をとらえ医学とは何かを説明できる
- 2、医学の変遷と現代医学の特徴を説明できる
- 3、健康・病気・医学による身体の変化と医学の発展・社会状況を説明できる
- 4、病気の診断と治療・リハビリテーション・予防等を説明できる
- 5、医学・医療における看護の関係性を説明できる

講義の最後に、その日の講義のポイントを示すことで、復習を促し助けにしてもらった。尚、医学の歴史に関しては、自主学習によりレポートを提出させ、試験とは別に採点し評価した。

来年度は事前事後学習時間を設定し、教育効果を上げるために、リアクションペーパーによる質問や意見を受け付け、次の講義時間の最初に解説を加える。また医学の歴史に関するレポート提出に加え、発表の機会を模索したい。講義の最後にポイントを示すことは継続したい。

3) 解剖生理学Ⅰ:1 年次前期

土井庄三郎、非常勤講師(7名)

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を看て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力も求められる。その際、身体の異常に気がつく力、異常を知る力が必要になる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれると異常となることから、身体の異常とは何かを知り、異常に気がつくには正常な身体の仕組みと働きを知っている必要がある。したがって、人体や人体を構成する器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項を学ぶ必要がある。

循環器では「心臓の構造(解剖)と機能(生理)」「末梢循環系の構造(解剖)と機能(生理)」、呼吸器では、「肺の構造(解剖)と機能(生理)」について講義を行った。講義資料は、指定教科書の図表を基に書き込みを加え、教科書の記載内容も適宜分かりやすく解説した。講義の最後には、毎回リアクションペーパーによる質問や意見を受け付け、次の講義前に回答を示した。

試験は循環器と呼吸器以外にも、基礎知識、消化器、腎、血液、泌尿器、口腔外科を含む領域で実施した。不合格者には補講を2回実施し、再々試験により全員が合格した。

来年度は学習効果を上げるために、新入生ガイダンスとして医学の前段階プログラム(細胞、ホルモン、脳・神経系)に関する講義を行う予定である。また事前事後学習時間を設定し、各講義後にリアクションペーパーにて質問や意見を受け付け、次の講義時間の最初に解説を加える。非常勤講師による講義に関しても、適宜私の方で補講を考慮中である。

4) 疫学・保健統計:1年次後期

高木晴良

疫学が、疾病の流行状態からその原因を探究し、予防方法を検討することで、人々の健康とQOL向上に資する学問であることを理解し、疫学によって各種エビデンスが創出されることで、医学や看護学が発展していることを理解してもらうことを目的とした。さらに、流行状態を示す情報源である各種保健統計の読み方の習得も目指した。そのため、医学・看護情報学の基礎の情報学部分(バイアス等)と公衆衛生学の保健統計部分、今まで触れる機会のなかった疫学の基礎部分を組み合わせた講義とした。

講義内の重要なポイントを空欄問題形式にして事前に配布し、事前学習の資料とした。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。学生からの質問に対する回答は、次の講義の前日には WebClass に文章として提示することで、情報を全員が共有できるようにした。

今年度も、対面で WebClass を用いた試験を行った。試験自体もスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

5) 実践統計学:1年次後期

高木晴良、堀田昇吾

数多く存在する統計的な分析方法の一番基礎となる部分を、身近な Excel と大学生のアンケートデータを用いて、集計・分析することで、基本的な統計用語と統計学の基礎を習得し、その後、より実践的な健診データを各自のパソコンにインストールされている統計ソフト(JMP)を使って集計・分析することで、より実践的な知識として身に付けることを目的とした。

事前に操作と統計用語に関する説明資料と実際に操作方法を説明した動画を学生に提示することで、反転授業を試みたが、予習が十分でない学生が散見され、スムーズにできる群とスムーズに進めることができない群に分かれてしまったようである。

ただし、「健診データを指示に従って集計、分析する」という最終課題をクリアできたことから、必要最低限の分析手法は身についたはずである。今後は、この内容を忘れないように、2 年次以降のHDS関連の講義中でブーストしていく予定である。

6) 公衆衛生学:2 年次前期

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

わが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含んでいる。また、環境と生活者の健康の観点から、環境汚染及び職業性疾患とその対策なども取り上げた。

公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修することを目的とし講義を行った。

講義内の重要なポイントを空欄問題形式にして事前に配布し、事前学習の資料とした。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。学生からの質問に対する回答は、次回の講義の前日には WebClass に文章として提示することで、情報を全員が共有できるようにした。

今年度も、対面で WebClass を用いた試験を行った。試験自体もスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

7) 医療・看護情報学の基礎:2 年次前期

高木晴良

「看護職にとっての「情報」とは何なのか」ということを知るだけでなく、その「まもり方」を中心に解説した。昨年までの「医療・看護情報の特殊性」「病院内の情報ネットワークシステムの種類と導入推移」「情報倫理と医療倫理」「患者の権利を守るために必要な情報の取り扱い」「個人情報とプライバシーの違いと、その保護の方法」の 5 つテーマだけでなく、今年度からは「AI や ICT を用いた医療システムや遠隔医療」についても講義を行った。

講義内の重要なポイントを空欄問題形式にして事前に配布し、事前学習の資料とした。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。学生からの質問に対する回答は、次回の講義の前日には WebClass

に文章として提示することで、情報を全員が共有できるようにした。

今年度も WebClass を用いて対面で終講試験を行った、試験自体はスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

8) 家族看護学:2 年次前期

三浦由紀子、村松仁、久保恭子、藤村朗子、堀田昇吾、濱寄信恵

家族看護学は、家族の役割機能、現代の多様な家族に視点をおき、家族を単位として様々な視点でとらえる見方を養い、疾病や障害が家族に与える影響について理解し、家族看護の意義と役割を学ぶことをねらいとした。時代とともに多様化する家族形態、家族のあり方や家族の特性、家族をアセスメントするための情報収集の視点を提示し、家族のライフステージと発達課題、および健康危機などの事例を提示し、学生が実習で家族と接する機会が少ないことも考慮し、家族看護に対するイメージがつくよう、動画教材や、事前・事後課題を活用して、家族の多様性と家族看護について学生が考えることができるよう講義をすすめた。また、各回で課題をまとめてもらうことで、家族看護の重要性について学びが深まったと評価している。

次年度も、学生がイメージしやすい事例を提示しながら、家族観、家族のセルフケア機能を高めるための家族看護の基本的な考え方や役割について、学生が主体的に思考し学ぶ工夫をしていきたい。

9) 政策医療論:2 年次後期

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子、非常勤講師(4 名)

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、医療ニーズに応えていくための医療者の役割について学修する。

日本において全国的に医療展開している国立病院機構の医療の現状や組織的な政策医療論の全国展開をふまえた今後の医療のあり方について国立病院機構等の非常勤講師から教授し、特に、社会福祉の動向や災害医療の法的根拠に基づいた展開など、他の科目を補完して学修を深めていけるよう講義を展開した。さらに、看護の教員から医療チームの一員としての看護師の役割について考えを明確にできるよう教授した。

10) 災害看護学Ⅱ(災害看護学概論):2 年次後期

三浦由紀子、長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、非常勤講師

災害看護学Ⅱでは、災害看護Ⅰで学修してきた内容を踏まえて、災害時の医療・看護活動の基盤となる災害対策の法的根拠や、発災時から変化する状況下で、多職種と連携・協働しながら、災害サイクルにそって医療および看護活動を展開するための知識・技術・態度について学修することを目標とした。災害拠点病院の役割や発災時の行政および医療施設の対応などを解説し、被災者への支援については動画などを用いてイメージが湧きやすい教授方法を採用した。

災害拠点病院の役割や発災時の対応について、体験を通して理解するために、災害医療センターの防災訓練に参加を予定していたが、能登半島地震の影響によって訓練は中止とな

った。代替講義として、能登半島地震に対し、現地に入り DMAT および国立病院機構の支援活動に参加された災害医療センター職員の方々(4名)に、災害支援の実際について講和を行っていただいた。これにより、今後の学習の動機付けにつながる学びとなっていた。

次年度も、災害訓練の参加など、体験を通した学びとなるような授業を工夫していきたい。

11) 臨床検査学演習:2年次後期

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子、非常勤講師(3名)

臨床検査の意義および基本原理を学ぶとともに、解剖生理や病態に関する理解を深める授業とした。以下の項目について、小グループに分かれ、学内で対面演習を行った。

「組織学的検査」に関しては、顕微鏡の専門家を学外から非常勤としてお願いしているため、より教育効果の高いプログラムとなっている。

「心電図検査」については、12誘導心電図を用い、看護師役患者役双方の体験を通し、検査時の看護師の配慮について検討をした。

「環境汚染検査」については、モデル人形のオムツ交換をすることで実際の汚染拡散状況を体験した。

「超音波検査」に関しては、基本的原理の理解だけでなく、看護援助場面でのエコーの活用についても教授した。果肉ゼリー等を使って、エコー画像の見え方を理解した後に、学生自身の腕の血管を描出し、その見え方を受講者全員が体験した。

「放射線検査」は環境放射線の測定を行うと共に、線源からの距離や遮蔽物の種類による放射線量の変化を測定した。

その他に本年度から、血液データと臨床症状を学生に提示し、患者の状態をアセスメントする演習を追加し、アセスメント力の向上を目指した。

12) 医療・看護論文の講読:2年次後期

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

EBN における看護研究の意義と論文の種類、構造、検索方法について講義した。また、学生はテーマ別のグループに分かれ、自ら検索・選択した和・英論文を各1本読解し、その内容をグループ内で発表した。さらに、グループ内で発表された論文の中から和・英論文1本ずつ選択し、他のグループ全体へ論文の内容とその評価結果をプレゼンテーションした。

多くの学生は論文に初めて触れる機会となったが、他グループのプレゼンテーションに対しても活発な意見交換がみられ、クリティークのポイントを理解することもおおむね達成できていた。

13) 看護研究の基礎:3年次前期

高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

EBN における看護研究の意義を理解し、倫理・安全面への配慮も含めた看護研究の進め方について講義した。

看護学における研究の意義・研究で用いる用語・研究方法・倫理的配慮について理解するとともに、倫理申請書の置き方や研究計画書の書き方など基本的な知識を習得することを目的と

した。

さらに、身近な量的データを Excel や統計ソフトの JMP を使って実際に分析するという演習を行った。卒業研究を実施する段階で「統計が全く分からない」ということでは困るため、必要最低限の知識を確認してもらった。

14) 国際看護学:3年次前期

三浦由紀子、長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、非常勤講師

進展するグローバリゼーションと健康問題との関連、世界の健康問題の現状や課題を知り、医療保健分野での国際協力のあり方や看護の役割機能について多角的に学ぶことを目的としている。グローバルヘルスやリプロダクティブヘルスの現状や国際協力・国際貢献の実際について学習し、今日的な課題について考える内容の講義を行った。

実際の健康問題、SDGs に関連する各国の健康指標を調べてグラフ化したり、国際協力に実際に関わってきた教員の体験をもとにした教材を用いたりしたことで学生の関心が高まり、国際看護を身近なこととして認知し、その将来を考える機会となったようである。

15) 災害看護学Ⅲ(災害看護学実践論):3年次前期

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子、大場久美、桜井礼子、高以良仁

災害時の防災・減災におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、災害発生～災害急性期、亜急性期～慢性期、回復～復興期 までの全ての過程での救護活動に必要なスキルや大規模災害時に国際的視野に立った活動ができるスキルを学ぶことを目標とした。さらに、NBC 災害(核(nuclear)、生物(biological)、化学物質(chemical)による特殊災害)に対する基本的知識・技術についても紹介した。

また、対面演習としては、DMAT 隊員による災害現場救護所における対応と二次トリアージに関するシミュレーション演習と避難所運用ゲームであるHUGを実施した。これまでの災害看護に関する知識をベースに演習を行うことで、より実践力育成につながったものと考えている。

16) 医療安全学:3 年次前期

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子、岩淵起江、非常勤講師(2 名)

医療安全の基本的な考え方を理解し、医療における安全性の確保に向けた看護師の役割と責任について学修する。医療安全の概念やヒューマンエラーに関する内容から導入し、国民が求める医療の安全と医療の質保証の観点を教授した。その後、看護師の役割や法的責務について教授し、実臨床でのインシデント事例を参考に、P-mSHELL モデル、RCA 分析、Team STEPPS 等を用い、医療事故の発生から今後の対策までの解説を行い、医療事故に関する意識を高められるように工夫した。

医療事故防止には、日常のインシデントの共有が効果的であることの理解を促すために、事例からのリスク想定・リスクの優先順位および対策立案の演習を行い、グループワークでディスカッションし、学びを共有した。

職業上の安全対策では、よりリアルな学習環境を設定するために、VR 教材を実習施設と連携

して開発し、学生が実際の医療現場をイメージできるような講義を展開した。

なお、VR 教材を用いた講義に関しては、第 43 回日本科学学会学術集会において発表を行った。

17) 英語論文のクリティーク:3年次後期

高木晴良、各領域担当教員

卒業研究に向けて、英語の論文を批判的に読むことにより、卒業研究に関連する分野の最新動向を把握すると共に、研究活動における文献調査の意義を理解することが目標である。

各領域で、指定された英語論文や各自で検索した論文を精読し、卒業研究グループの中で、抄読会形式の発表と討論を行った。

18) 看護学統合実習:4 年次前期

長田恵子、高木晴良、各領域担当教員

本実習は、4 年次までに学習した全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成、自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としている。

臨地実習に入る前に、自己の実習課題を明確にし、実習施設の特徴を理解した上で、各学生は実習計画の立案・実施・評価を行った。臨地実習は 4 施設で実施した。学生は「複数患者受け持ちによる優先順位の考え方」「看護師長やリーダーによる看護マネジメントの実施方法」「夜間看護の特徴」などについて学んでいた。

19) 災害看護学実習:4 年次前期

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、三浦由紀子

災害看護学実習は、災害医療センター、立川防災館の2施設で行った。マス・トリアージ、多数傷病者病院受け入れ実習、災害体験実習、災害時病棟初動実習、災害時多職種連携実習、避難所設営運営実習、災害医療センター災害訓練などを実施した。災害医療センターの DMAT メンバーから全面協力を得られ、臨場感のある実習になり、災害医療における看護職の役割機能や、各所における責任ある行動及びリーダーシップについて学修することができていた。

20) 災害看護学に関する卒業研究:3年次後期・4年次前期・後期

長田恵子、高木晴良、その他全教員

13 名程度のグループごとに、災害に関連する具体的なテーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを実践する。卒業研究を通して、臨床現場で行う看護研究のための基本的な方法論を習得することが目的である。

2023 年 11 月 3 日には、「2023 年度卒業研究発表会」を、4年生及び教員は教室で、3 年生は Zoom で参加するというハイブリッド形式で開催した。来賓として、災害医療センターからは「鴛田美奈子副看護部長、福田敦子教育担当看護師長」の2名、村山医療センターからは「杉

山学子看護部長」、立川病院からは「菱沼啓子看護部長」が来校され、発表会に参加して下さった。

なお、各ゼミのテーマと構成メンバーは以下のとおりである。

ゼミ名	テーマ	学生氏名
基礎②	災害ボランティアとしての学生の特性を活かした人材派遣に関する一考察	佐藤なるみ・相澤ゆずか・井上ひびき・井上慶乃・尾形真宙・佐藤里咲・鈴木里菜・辰井美香・角田桃花・遠山栞・永井櫻子・萩原日向
老年	災害時用ストーマ装具の備蓄ができない理由に一時的ストーマ保有者と永久的ストーマ保有者で違いはあるのか: KJ 法による分析	荒木香乃・井伊菜華・岡部真紘・岡本愛海・北島優華・佐藤まなみ・杉浦菜々子・高橋侑悟・寺崎香帆・中里彩乃・能見明・藤田溪・宮原南海
基礎①	女子大学生の非常用持ち出し袋における生理用品の準備状況とその関連要因	小林美愛・高木美月・石川綾子・大野理紗・木藤名都・小林紗菜・小林真央・佐伯結菜・篠崎楓・長島珠美・長田莉野・松原亜優
母性	ベビーウェアリング時の母親がとる地震動時の安全確保動作の特徴	道庭春樹・三十苺佳瑚・新恵里佳・尾野上奈々・金田珠貴・小牧和樹・比留間菜海・町田菜摘・松井彩葉・松井桃葉・森梓紗・葭矢叡美
基盤	トランスジェンダーを中心とした性的マイノリティに対し自治体がおこなっている避難所運営の備えについて ～その実態と関連要因～	浅見美空・松浦心咲・村田愛子・和泉愛加・兼本珠美礼・高部彩音・辻花菜・日比野友香・堀内明音・前野南帆・水野里彩・本橋実莉・山口誌萌
精神	COVID-19 蔓延化における看護学生のストレスと対処法	五十嵐ゆく美・梅岡明莉・大内ここね・萩野渚・加藤絵梨奈・久保梨花・兒玉萌花・嶋田 爽・清水陸矢・前阪 拓・森田七海・四ツ井瑞希・李珠仙
在宅	認知症型グループホームにおける首都直下型地震を想定した防災対策の実態	黒沢彩加・鈴木麻央・大越優斗・神山陽菜・坂本恭佑・佐々木美月・佐藤あみ・諏訪田真希・田邊依里奈・土岐裕介・吉原佳祐・竹内寿樹・高橋弥輝
小児	未就学児を持つ親の水害対策の現状と課題	浅野翔・真家桃香・安藤早耶・石毛結月・内田花梨・木村菜初・徳長レナ・前野莉那・深山友里花・向山千花・最上奈々香・望月花音・山内元太
成人	首都直下地震に備える血液透析患者の実態調査	谷田瞳・安生真菜・石橋由梨・伊野祐希・岩尾織磨・内田結菜・大橋美友・小林美海・佐々木萌・高橋穂夢・寺脇涼香・長坂翔・野原花梨

21) 看護政策論:4 年次後期 (選択必修)

今年度は、選択を希望する学生が少なかったために開講しなかった。

【基礎看護学領域】

教育方針

基礎看護学は、すべての健康段階にある人を対象とし「基本的ニーズの充足を目指した看護」を行うために必要となる知識・技術・態度を修得する。科目は、「看護学概論」「看護倫理」「看護理論」「看護実践技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「ヘルスアセスメント」「フィジカル・アセスメント」「看護過程と看護方法論」「コミュニケーション技法」の他に実習として「看護学体験実習」「日常生活援助展開実習」「看護過程展開実習」で構成されている。前期の講義にはオンライン授業も入っていたが、後期からは原則対面授業で実施している。演習は前期・後期ともに対面で実施している。基礎看護学領域の特徴として演習は多いが、学生により手厚く指導を行うため2クラスに分け、全教員が対応して指導している。次年度は対面で講義・演習を行っていく。基礎看護学は看護学の基盤となる領域であり、学生が主体的に看護の学修を実践していくための基礎力の構築を図っていききたい。

1) 看護学概論：1年次前期

松谷弘子

看護の初学者が最初に看護を学ぶ科目として、「看護とは何か」を考えるに当たり、看護の歴史、日本における健康に関する認識と医療の変化・発展、及び法律を含めた政策の変化など時代の流れの中で、理解することを通して考えられるよう講義内容を構築した。看護の基本概念である「人間、健康、環境とは何か」について、ナイチンゲールとヘンダーソンを中心とした考え方やその理論家の生きた時代背景を含め、看護の変遷が理解できるように講義した。ヘンダーソンに関しては、看護過程展開時に繋がられるように教授した。看護のイメージができるように、また看護する喜びが感じられるように具体的な事例を含め講義内容を構築した。

2) 看護倫理：1年後期

岩満裕子

倫理的問題は、どこにあるかを身の回りで起きている事象を取り上げ、事例を中心に倫理的問題が理解できるよう教授した。倫理的問題を理解したうえで、基本である世界医学界宣言で如何なる視点で医療倫理を捉えているか、更に、看護者の倫理綱領の理解が深められるように事例を用いて解説した。医療倫理に関しては、トム・L・ビーチャムらの記した「生命医学倫理」を活用し、事例を取り上げ倫理的問題がどこにあるか考える時間とした。倫理的問題の解決法としては分析ツール(JONSENの窓、4ステップモデル)を説明し、実際に事例分析を個人で検討後、医療における倫理的問題の検討すべき視点を教授した。最後は、災害時に起こりうる倫理的問題として考えられる事項とその対策についてグループワークを実施した。最終レポートとして、身の回りの倫理的問題を取り上げ、倫理的問題がどこにあり、その対策までを記載し、倫理に関する理解を確認した。次年度は、倫理的問題に気づくことを重点化し、対策については学生が考える範疇で検討していく。事例を読み砕くことで理解できるように教授し、看護倫理の視点を教授する。

3) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）：1年前期

菅野由貴子、松山妙子、大場久美、松谷弘子、岩満裕子、片岡大己、渡邊はる美

初めて看護学を学ぶ学生が「看護技術」を学ぶにあたって、人間の生活活動として当たり前のように行ってきた生活が成立するために必要なことを科学的根拠に基づき基本的な知識や特徴を学ぶ必要性を示した。これを土台としてさまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術の基礎的知識・技術・態度を学習することを目的とした。患者役、看護師役の両方を体験し、対象の日常生活にかかわるニーズを判断し、人間の尊厳や権利の擁護、安全・安楽に配慮しながら援助を実施する必要性を意識できるよう演習を展開した。実技演習を重視する本科目では、事前に講義の復習とナーシングスキル等動画教材の視聴、技術の手順の根拠や留意点について自己学習を行い、技術をイメージしやすいよう演習実施時の教員デモンストレーション、少人数に分かれて教員からの指導の下で実施した。初学者であることを活かし、より患者に近い視点で援助を客観視し、より良い方法を自ら考え取り組む姿勢を養った。清潔の技術と共に日常生活援助実習で実践できる技術が多いことを踏まえ、学生の学修への動機付けを行っていききたい。

4) 看護実践技術論Ⅱ（治療・処置における援助技術と判断）：1年後期

菅野由貴子、松谷弘子、岩満裕子、松山妙子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

治療・処置における援助技術は、看護専門職としての自律的判断を要し、より高い倫理性と正確性、安全性が求められる。講義では診療の補助の意義と看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について教授した。講義で得た知識を活用し、根拠を明記した手順書を作成すると共に、具体的にどのようなことを意識して実施するか目的意識をもって演習に臨むよう課題を提示した。教員指導の下での演習でも必要に応じて演習中も動画で確認しながら主体的に学習を行うことを目指した。清潔・不潔の区別が重要になる技術項目であるため、全体を通じて清潔なものを汚染しないこと、汚染を広げないことを、汚染した場合にはどうするかを考えられるよう演習を行った。中核技術の実施にはシミュレーションモデルを使用するが、その前後では交代で患者役を学生が行い、技術の提供以外にどのような援助が必要かを常に考え判断するよう課題を設定した。今後も根拠に基づいた正しい技術の習得と共に、対象への倫理的配慮、安全・安楽を意識した援助技術の学修を継続したい。

5) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）：1年後期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

あらゆる健康段階の対象にとって、日常行われている清潔の意味を考え、看護師が実施する清潔への援助について学修した。対象の清潔に関わるニーズを理解し、対象の個別性に応じ、既習の日常生活援助に関する知識や技術を統合・活用して、最善の看護を実践する意義と方法を学ぶことを学習目標とした。講義前半の演習では、事前にナーシングスキルの視聴、技術の手順の根拠や留意点について復習を行い、グループでディスカッションを行いながら知識と技術の学習を深めた。講義後半はグループワークを通して、患者の個別性に配慮した援助について学ぶために、事例から看護の根拠や介入のレベル、援助計画検討、援助の実施を行っ

た。実施後は、自らの援助計画とその実施の評価を具体的に振り返ることで、個々の技術の提供ではなく、技術の統合の大切さ、患者の反応を捉えることや援助を評価することの意義を学修した。次年度以降も、日常生活援助の知識と技術を統合する力と、対象の個別性に応じた援助方法の実施とその意義の習得に向けて、講義・演習内容を検討していく。

6) ヘルスアセスメント：1年前期

松山妙子、松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

シラバスを抜本的に見直し、対象の健康状態を把握するための技術について LMS を活用しながら教授した。コミュニケーションや情報収集では、VR を活用しながら、患者目線・患者家族目線で、情報収集技術や医療者の態度についてディスカッションを行った。VR の活用はリアリティを感じることができただけでなく、学修への興味関心も高まることから今後も活用したいと考えている。演習では、技術確認で用いるチェックシートに基づいて教授した。Medi-EYE での事例患者の健康状態をアセスメントができることをねらいとして、患者役・看護師役・観察者役にわかれて実施した。バイタルサイン測定は演習後に技術確認を実施し、必要な学生には補講を行いながらスキルの再確認を行い、すべての学生が測定できるよう支援した。

次年度は LMS を多用し、後期の看護過程と看護方法論につなげることができるよう授業展開を検討したい。

7) フィジカル・アセスメント：2年後期

岩満裕子、松谷弘子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

カリキュラムの変更に伴い、1 年後期から 2 年前期へ移動したため、解剖整理・疾病についての理解ができていることを前提に講義を実施したが、履修した科目の理解が不十分な状態であり、概略した説明では理解が難しかったとアンケート結果から考える。

身体各部位の見方を中心に講義構築しているため、人体全体としてアセスメントする力が理解できていない学生がいたと考える。次年度は、トータル的に人体をアセスメントできるように、事例を検討し、演習にてアセスメントできる実践力を教授していく。

8) 看護過程と看護方法論：1年次後期

松山妙子、岩満裕子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

臨地実習を見据えた看護過程の展開をキーコンセプトに、ICT ツールや模擬患者を活用した授業展開を行った。教育用電子カルテ Medi-EYE を活用し、膨大な患者情報からアセスメントに必要な情報を自ら収集する力を養うことをねらいとした。また、F.CESS nurse を用いてアセスメント・看護問題の明確化・看護計画・実施・評価の記録を行い、臨床でのデジタルリテラシー能力を育む授業展開を行った。ICT ツールを活用することで、情報リテラシーについても考えるきっかけとなり、臨地実習前のレディネスを高める機会となった。看護計画の実施では、4 年生を模擬患者に見立てて自ら計画した援助を実施し、4 年生より看護目標の到達に向けてのフィードバックから、看護計画の追加・修正のみえる化を促進する演習を実施した。

次年度は、他の科目との連携を図りながら対象理解の促進と臨床推論を養える授業展開にし

ていきたい。

9) コミュニケーション技法：1 年次後期

岩満裕子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

基本的なコミュニケーション技法について概説し、自己理解・他者理解を中心に据えて教授した。自己のコミュニケーション能力が如何なるものか、患者とのコミュニケーションにおいて如何なる姿勢等が必要となるかを学ぶ目的で、日常生活援助展開実習をイメージできるように模擬患者演習を3回実施した。1回目は、言葉の伝わり方及び患者の表情・態度から読み取る必要性の理解を目的に、DVDの視聴、プロセスレコードで自分と患者の会話を振り返る演習。2回目は実習初日の挨拶から援助の実施に向けた承諾を得るシーン、最終日の患者への挨拶までの流れでブースを5つ作成して実施。3回目は指導者への報告演習とした。模擬患者・指導者役として、リアル感を演出するために卒業生に協力を得て実施した。演習は録画して、全員で共有し、全体で振り返りを行った。各演習後は自己評価を実施した。認知症、聴覚・視覚障害、言語障害を持つ方たちへのコミュニケーションについては障害ごとのグループで調べ、グループを再編成し、それぞれがその障害の専門家として教え合うジグソー学習を実施した。次年度も同様に計画予定である。

10) 看護学体験実習：1 年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

座学で学んだことを実際の医療機関や地域の施設での見学実習を通し、看護の対象や看護を提供する場について幅広く理解を深めることができた。実習病院である国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターの看護部の協力の元、初日は学生全員がいずれかの施設にて看護職の役割と活動の説明を聞き、午後からは病院の環境を学ぶために施設内の見学を実施した。2日目以降は病棟や病床の環境を学び、看護の提供場面を見学し、実際に入院している患者の反応を観察して、入院している患者について理解を深めた。病院以外に地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設の3つのうち、いずれか1施設の見学実習を行った。学生は、これらの施設見学を通して、これから学ぶ患者という対象を病院という視点だけでなく地域で生活している対象者として幅広い視点で学ぶことができ、今後の看護学の講義や演習にイメージしやすくなり、学習効果が期待できる実習となった。次年度も感染対策を徹底し、学生の学修内容が深められるよう検討していきたい。

11) 日常生活援助展開実習：1 年次後期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

1年生が初めて入院患者を受け持ち、講義・演習で学習した日常生活援助を実際に行いながら、知識・技術・態度の統合を図り、また今後の看護学の学習に向け、看護実践能力獲得の視点から自己の課題を明確にすることを目標としている実習である。今年度も国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターの2施設で実習を行った。臨地実習を通してPlan-Do-Seeの重要性や患者とのコミュニケーションから得る情報収集の難しさ等を実際に

学修することができた。今回から電子記録を用いて実習したが、問題はなかった。次年度は電子記録に必要な環境の充実を一層図っていききたい。

12) 看護過程展開実習：2年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、松山妙子、大場久美、片岡大己、渡邊はる美

国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターで実習し、COVID19 感染対策として、臨地実習と学内学習のハイブリット学習となった。実習開始前から臨床側との連携を密にし、教育体制を整えたため、学生は学内の学びと臨地での実際を統合することの学びと今後の自己の課題を明確にすることができた。学生にとって、初めての看護過程の展開実習であり、学内で学んだ看護過程の知識と実際の患者のケアを結びつけて思考・記載することの大切さを学生は実感することができた。今後も臨床側との連携を密にして、感染拡大を想定した状況に対応できる実習体制を整えていく必要がある。

13) 看護理論：2年次生後期

松谷弘子

看護理論とは何か、理論の概念枠組み、構造を理解するとともに、看護実践における理論の活用方法について具体的事例をあげ、看護の展開にどの様に理論的視点が盛り込まれているのかを教授した。災害看護の視点から、異文化理解の視点を持つレイニンガーを含め10名の理論家を中心に教授した。グループワークでは、1名の理論家に対して2つのグループがプレゼンテーションを行い、理解が深まるよう全体討議した。学んだ10名の理論家について、理解したことをまとめる作業を行うことで様々な理論が理解できるよう組み立てた。次年度は、理論と実践をさらに結びつけられるような講義も取り入れ、理論に興味を持てるように構築していく予定である。

【成人・老年看護学領域】

教育方針

成人と老年の二つの看護学領域を合わせて、AYA世代から老年期まで、死を含めてこのライフステージにある人々を「統合された存在である人間」として捉え、その看護を検討し教授する。概論、各論、実践論を段階的に展開し、臨地実習に結実させる。今年度は学部方針であるアクティブラーニングとICTの推進に則り、講義と演習ではロールプレイング、グループディスカッションなどを、臨地実習ではF.CESSの活用に力を入れた。各授業では、教員の臨床経験、小説の名場面、歴史的事実、社会現象、事件なども用いて解説し、学生にとって未知である大人や高齢者への想像力を高め、「人が生まれ、成長し、死ぬ」というプロセスへの洞察と共感を養った。またこれらをもって自身の看護観、死生観を形成し、人々への愛と社会への使命をもって実践する看護学生を育成することに努めた。来年度は教科目間の関係を重視して教授し、総合的な視点で成人、老人を理解できる学生を育成したい。

科目名

1) 成人看護学概論：1 年次後期

青木和恵、藤村朗子、櫻井敬子

成人看護学概論は、成人看護学の土台である。成人の特徴、健康と疾病の状況を学び、成人とは何か、さらに個人の人生と社会において成人であることの意味と、成人が病を得ることの意味を理解し、これらから成人看護の意義とその方法を学修する。学生の多くは 20 歳前後の AYA 世代であり、学生にとって成人は未知の存在である。そこで事例展開で、両親や祖父母など学生の身近な大人を想像できる内容を提示し、これらから理論や概論を理解できるように進めていった。また歴史小説における名言、古今東西の格言などを多く取り入れ、学生の大人への関心と想像力を高め、AYA 世代も含め、その健康問題や看護を理解し、医療問題や課題などを理解できるように教授した。学生は核家族、若者減少という世代背景の中で生活しており、加えて新型コロナウイルス対策によって人との接触の少ない状況が続いてきた世代である。これらの学生が広く長い幅をもつ大人というライフステージを理解するために、さらに学生の想像力、推察力、関心、感性を高める授業の展開が課題である。

2) 老年看護学概論：1 年次後期

青木和恵、内藤亜由美、折元美雪

老年看護学概論は、高齢者をライフサイクルと社会環境から捉え、多様で幅広い老年観を学び、高齢者の健康を促進し、個々の人生において良い老年期生活、ひいては死を含めたその人らしいエンドオブライフを支援するための看護を学ぶ授業である。学生にとって高齢者は未知の存在である。したがって、授業では身近な事例や社会的話題などを取り入れて想像力を高め、グループワークによるディスカッションなどのアクティブラーニングで高齢者とその問題を身近に感じられるように授業展開した。また超高齢社会における統計データ、高齢者福祉、医療制度など、高齢者を取り巻く社会情勢については、成人看護学概論との関係性などを用いて丁寧に解説した。そして高齢者の人権と安全などに関する倫理問題、意思決定とエンドオブライフケア、家族看護など、老年固有の課題を理解できるように、成人、老年に関する理論を取り入れ展開した。来年度はさらに成人看護学科目との関係を重視し、成人と老年が統合された存在である人間を理解できるように教授していくことが課題である。

3) 慢性期看護論：2 年次前期

櫻井敬子、青木和恵

生活習慣から派生するおもな慢性疾患の看護を解剖生理・病態生理をふまえて講義を構成した。講義は既習学修の内容は事前学習課題に取り入れ、治療・処置と看護の関連ができるように進めた。また、講義中に知識の確認ができる問題を取り入れ、その反応から次の講義の中に振り返りできる内容を取り込んだ。また、がん看護はがん認定看護師の資格を有する教員による講義を行っている。治療経過に伴う対象の変化の事例を交え、臨床に現状と対象とのかかわりの困難さや、価値観の変化に対応した看護の重要性を教授した。また、その看護について学生が考えた取り組みや看護に対する思いを事後学習課題として看護観、倫理観へ繋がる一助とした。

次年度も、学科進度によっては、病態理解に関する単位が未修得であることから、今後も、

事前課題・事後課題において網羅できる内容の検討を行っていく。また、各単元のルーブリック評価をもとに、学習理解が深まるように講義内容の検討を行い、次の単元に活かしていく。

4) 老年期看護論：2年次前期

内藤亜由美、折元美雪

老年期看護論は、1年次の老年看護学概論の学修を基にして、老年期の健康障害の特徴、健康レベルに応じた看護実践を学び、加齢による生活機能障害を有する高齢者および家族への看護援助の理論と具体的な方法を学ぶ授業である。今年度の授業は、入院治療を必要とする高齢者の看護について理解できること、高齢者に特徴的な健康障害に対する援助方法について理解できることを到達目標として展開した。

対面授業と講義内容によっては Zoom を用いた双方向性のある授業を行った。授業で取り上げた高齢者に特徴的な健康障害は、肺炎、パーキンソン病、認知機能障害、骨折・骨粗鬆症、うつ・せん妄であった。最終回の授業はこれらの健康障害を有する高齢者を支える多職種連携についてグループワークと成果の発表を行った。いずれの講義も学生の理解につながるよう図表や動画、事例を取り入れる工夫を行った。評価は課題と対面の試験で行った。

次年度は、カリキュラムツリーに基づき他領域の授業科目対応内容も照会しながら、老年看護実践論、成人・老年看護実践論へ発展性のある授業内容を構築していきたい。

5) 老年看護実践論：2年次前期

折元美雪、内藤亜由美、青木和恵、大場久美

高齢者の特徴をふまえた看護技術について学ぶことを目的に講義・演習を行った。講義では病態や看護の基本内容を学修した後に認定看護師を外部講師として招聘し、急性期病院における認知症高齢者への具体的な看護の実際を深められる配置とした。また、特徴的な災害時における看護として、専門看護師による実際の画像・具体的事例の提示を含めた講義とした。毎回講義の冒頭では、前回講義に関する学びや疑問を全体に向けフィードバック及び補足説明をすることで誤った解釈の是正と復習による定着を図った。演習では、摂食嚥下機能障害における看護について各々が加齢変化を想定した飲食の場面の疑似体験を通して学びを深め看護援助について考える力を養った。また、高齢者のヘルスプロモーションの視点では、後期の老年看護学実習Ⅰの集団を対象とするレクリエーション企画・実施を想定した演習を展開した。これまでに学修した老年期の特徴をふまえた企画内容の検討が学生間で主体的にでき、グループダイナミクスが働いていた。今後も同時に講義を展開する老年期看護論との調整を図り、効果的な授業形態を検討していく必要がある。

6) 老年看護学実習Ⅰ：2年次後期

折元美雪、内藤亜由美、吉田奈々絵、青木和恵

地域で生活する高齢者の特徴と取り巻く環境、そして高齢者の健康な生活を促進するヘルスケアシステムを学ぶために高齢者福祉センター、老人福祉施設等で実習を行った。今年度はこれまでの懸案事項であった常に感染リスクが懸念される冬期の実習日程を夏期に移すことができた。施設実習では、対象に応じた関わりや多様な生活史・価値観に触れることにより、高齢者に対する理解の重要性と難しさを体感できるよう学生の学びやすい環境調整に努めた。また、

レクリエーションの企画・実施・評価を通して、高齢者の身体機能の維持・改善、社会参加および生きがいについて理解が深められるよう実習前・中・後で施設担当者と密に打ち合わせを行った。学内実習日には、高齢者への健康教育の視点でのプレゼンテーション、複数施設での学びの統合と共有を目的にまとめの発表を遠隔で施設とつなぎ実施した。施設指導者からの助言の機会も学生への効果的なフィードバックとなっていた。次年度も、同様の形式で実習を行い、地域や施設で生活する高齢者理解と高齢者に対する看護の役割に関する学びが深まるような内容を検討していきたい。

7) 急性期看護論：3年次前期

藤村朗子、荏田明子、三浦由紀子

急性期看護の基本概念、ストレス理論や危機理論など看護理論、疾病や侵襲的治療によって生命危機状態にある患者・家族の特徴について教授した。また、最終講義では現在の急性医療現場での治療や看護について最新のエビデンスに基づき教授した。今年度は「急性期における倫理的課題」について災害医療センターの救命救急センターの臨床指導者に事例提示と学生間のグループワーク・ディスカッションに参画していただいたことにより、実臨床に基づき学習を促進することができた。次年度は、新カリキュラムとなるためコアカリキュラム、学士課程コンピテンシーに準拠した学修内容としていく。

8) 成人老年看護実践論：3年次前期

藤村朗子、青木和恵、内藤亜由美、折元美雪、櫻井敬子、荏田明子、泥谷朋子
吉田奈々絵

成人看護学、老年看護学に必要な看護過程の展開、看護技術(一次救命処置、気管吸引、酸素投与、自己血糖測定)を教授した。成人看護学では各健康レベルの事例に基づき看護過程を展開した。模擬患者と看護師役(4年次生、本学卒業生の災害医療センター看護師)を設定し、教育用電子カルテを用いて実習さながらの演習を実施したことにより、実習に向けたレディネスを形成できた。老年看護学は、高齢者とのコミュニケーション能力向上と共に高齢者特有の健康課題に対処する技術を習得できた。次年度も臨床現場を見据えてリアリティのある学習環境の整備と最新のエビデンスに基づき、学生の実践力を習得できるよう授業設計を構築する。

9) 看護管理学：3年次前期

青木和恵、泥谷朋子

医療施設において看護組織と各種医療チームを運営し、多職種チームと看護部門のリーダーおよびメンバーとして、組織の目指す実践を展開できること、学生自身が医療者としてのキャリア形成を検討できることを目指した。まず日本の医療の現状と経済の状況を教授し、つぎに組織論として、日本の組織の形態と特徴、医療組織の形態と多職種チーム医療の特徴について説明し、看護部門における人材育成、労務管理、患者管理、安全管理、スペシャリストの育成などを解説した。また看護管理とは何かというテーマについてグループディスカッションし、思考を深めるように展開した。キャリア形成については教員が自身のキャリアアップのプロセスをプレゼンテーションして事例を提示し、学生のキャリアに対する意識を高めた。今後も学生にとって実感の薄い遠い存在として捉えられやすい看護管理を、看護の根幹であり、看護師にとって非常に

身近な実践であることを学生が理解して修得できるように、さらに教員自身の経験や事例で解説や、積極的なアクティブラーニングなどで展開していきたい。

10) 成人看護学実習Ⅰ（急性期）：3年次後期

藤村朗子、荻田明子、泥谷朋子

急性期にある患者および家族を多角的に理解し、心身の危機的状況下から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの生活過程を整えるために必要な基礎的な看護実践能力を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の2施設で実習を行った。今年度より集中治療室・手術室・救命救急センターでの実習を計画し急性期医療におけるチーム医療や看護の実際や急性期における倫理的課題についてカンファレンスで学修を深化することができた。次年度も臨床現場で必要とされる看護実践能力を修得できるよう学生が主体的に学修できる環境を整備し実習指導体制を強化する。

11) 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3年次後期

櫻井敬子、折元美雪、吉田奈々絵

本年度から長期に渡るセルフマネジメントの必要性和、それを支えるための看護師の役割を繋げる学修の充実を図ることを目的にした、災害医療センターの透析室見学を取り入れた。患者・家族の治療選択にかかわる葛藤や、治療継続中の患者の心身の変化に対応した医療者の役割をより深く考える機会を得ることができた。次年度も患者特性をとらえられる見学内容の検討を進めていく。

受け持ち患者は、疾患の増悪を防止するための生活指導に取り組める対象を選定したことが長期的な視点で看護を展開することに効果的であった。慢性期特有の複数疾患を有し、患者の急性増悪に伴う不安定な病態の理解に対応することに時間を要す場合は、臨床指導者と学習内容の焦点化を図り学生の支援をおこなった。災害医療センターの機能である急性期病院の役割と、村山医療センターの回復期病棟との連携を含めた慢性期看護の学びの共有を行った。それにより対象の健康の段階によって優先される看護援助についてディスカッションを行い、看護の役割の理解につなげることができることから継続して実施する。

12) 成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3年次後期

青木和恵、荻田明子、泥谷朋子

人生の終末を生きる対象患者を全人的に理解し、加齢や疾病から生じる苦痛を緩和し、患者が自身の終焉と向き合い、臨終までをより良く生きるための看護実践を学修することを目的とする臨地実習である。国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の2施設で実習を行った。終末期の医療実践については、医療者が死生観を持つことが大切となる。そこで前年度に引き続き、特に死生観に関するカンファレンスやディスカッションを積極的に取り入れ、学生の死生観の形成に働きかけた。これと並行して担当患者の看護過程の展開を進め、終末期看護という全ての医療に必要な看護実践を学修できるように図った。これらを通して、学内実習では学生が時間をかけて深く丁寧に学修することとなり、学生の思考力の養われる実習となった。来年度よりこの実習はなくなるが、今後は他の各論実習の中で終末期看護の学修ができるように展開していきたい。

13) 老年看護学実習Ⅱ：3年次後期

内藤亜由美、折元美雪、吉田奈々絵

看護の対象としての高齢者への理解を深め、病とともに生きる高齢者を全人的に理解し、健康回復の促進に必要な基礎的な看護実践能力を身につけることを目的とする臨地実習である。国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターの2施設で臨地実習を行った。

超高齢社会のため、現代の看護の対象者は高齢者が多くを占めるため、学生は成人看護学実習においても老年期の患者を受け持つ機会がある。そのような中、この実習では高齢者が歩んでこられた人生における生活背景、信条、価値観を踏まえ包括的視野に立ち、加齢に伴う心身の変化と病状を理解した上で受け持ち患者の看護過程を展開した。また、高齢者を支えるための社会資源やチーム医療の実際について、実際に臨床で活躍する多職種と病棟との連携を学ぶことができた。また、今年度より、実習記録は F.CESS を用いペーパーレス化を図った。評価はルーブリック評価を取り入れた。

次年度は、既習の学内の授業や演習、老年看護学実習Ⅰからのつながりを深めること、ルーブリック評価の吟味を取り組みたい。

14) 看護職とキャリア掲載：4年次前期

青木和恵、泥谷朋子

学生が自身のキャリアデザインについて検討できるようになることを目的とする授業である。専門職とは何かと専門職におけるキャリアの意義を教授し、看護職として成長するためのキャリア形成についてその必要性を解説する。今年度は特にキャリアアンカー理論について重点的に解説し、アクティブラーニングとして、学生個々が現時点でどのようなキャリアアンカーを保有しているかを自分自身で認識するためのキャリアアンカー診断を行った。そのうえで看護職特有のキャリアである看護管理者、特定看護師や診療看護師、専門看護師、認定看護師といった専門性の高い看護職の機能、立場、背景、またその資格などの取得のプロセスと役割、また卒後研修、大学院進学、さらに看護職から発展したさまざまな職業や役割について解説した。最終的なまとめとして、担当教員のキャリア形成のプロセスとキャリア形成に影響を与えた因子をプレゼンテーションし、学生がキャリア形成に関する実践的知識を修得できるようにした。来年度はさらにアクティブラーニングの幅を広げた授業としたい。

【小児看護学領域】

教育方針

小児看護学では、子どもの成長発達と子どもと家族を取り巻く環境を理解し、地域社会のあらゆる場面で生活する子どもと家族への健康支援と最善の医療・看護の提供、また、被災した子どもと家族が抱える課題の理解、これらの体験が PTG へと導けるような支援の提供にむけた看護を実践するために、基盤となる知識・技術を修得する。このような支援ができる看護の実践力の育成を目的に、科目は「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」で構成している。講義・演習は子どもと家族の権利を守り、成長・発達段階に応じた看護の実践

について学び、さらに学生が主体的に学習できるように、フィールドワークやライフストーリーの手法を用いての対象者の理解、臨場感あふれる講義や演習の展開のために成育医療研究センタースタッフ・患者家族も参加した講義をした。

科目名

1) 災害看護学Ⅰ：1 年生前期

久保恭子、宍戸路佳、濱寄信恵

目的は災害看護に関する基本的知識を理解し、災害時に必要な救急法を学ぶことである。内容は災害看護の定義、災害サイクル、トリアージ、災害時の心のケア、災害サイクルにそったトリプル災害時の看護、救急法・包帯法である。心のケアでは本学の特徴として整復遺体について ICT を活用した教材を作成し、学習効果の向上を図った。講義スタイルは対面授業と演習を組み合わせた。災害看護に関する基本的知識を学習した後、トリプル災害時の実際の看護を、福島県南相馬地区で看護活動を行った看護師の講義に参加し、災害看護について想像し、考える機会となった。また、講義の後、被災者と学生とのディスカッションにより学びを深めることができた。次年度は副専攻・災害看護学コースの全体の見直しにそって、本科目では災害時の自己防災について講義を追加していくこととした。

2) 小児看護学概論：2 年次後期

久保恭子、土井庄三郎、宍戸路佳、濱寄信恵、非常勤講師

目的は子どもの成長発達と子どもを取り巻く環境を理解することである。内容は小児医療・看護の歴史的変遷、小児看護の定義、小児の成長発達、子どもの人権、保健統計の動向と法整備、時代にそった小児看護の役割と課題等である。疾病予防の観点から、予防接種等の講義を土井医師より、また、実習先である成育医療研究センターの職員らによる小児病院の特徴と看護、小児看護師のキャリアアップ、小児看護の課題である移行期看護の講義を入れた。定型発達と子どものケアについて、一般的知識の提供と共に、学生自らの経験やおもちゃの作成などを通して学びを深めた。さらに、被災した子どもと家族への支援として、近年発生した国内外の災害の事例をもとに、子どもと家族へのケアについて学んだ。講義・演習は対面講義とし、一部グループワークや演習を組み入れ、全学生で学びを共有した。

3) 災害ボランティア論：2 年次後期

宍戸路佳、久保恭子、濱寄信恵

医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、多様なボランティア活動についての理解を深めること、及び専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動や、様々な対象を想定したボランティア活動の在り方について考えることである。今回、様々な場面でのボランティアについて、また経験等の一般論とともに災害時に支援を受け、現在ボランティアする側として活躍されている一般の方の話と、実際に災害時に専門職としてボランティアを実施した専門職の方の話、及びシミュレーション演習をとおして気づき、発見をしていた。さらには自分たちで災害時を想定した避難者の事例に対してボランティアを考え、ボランティアのあり方を考える

機会とした。

4) 小児看護学実践論：3年次前期

久保恭子、土井庄三郎、宍戸路佳、濱寄信恵、非常勤講師

目的は疾病や障害の有無に関わらず、子どもと家族への支援内容を理解し、対象への看護を学ぶことである。授業は対面講義、演習で展開した。講義では学生が最も苦手とする人体の構造と機能、子どもに多い疾病について土井医師よりわかりやすい講義を実施、その後子どもによくみられる疾患の看護について学ぶという過程をふんだ。疾患看護、看護技術演習については成育医療研究センターのスタッフによる事例を用いた臨場感あふれる内容、最新の医療・看護技術も盛り込んだ演習に繋げた。実習先スタッフによる講義や演習は、実習病院での患児と家族や看護の様子をイメージでき、実習への準備性の高まりを確認できた。学生への学びのフィードバックはWeb classを活用してタイムリーに行った。また、学生の学習成果を把握するためルーブリック評価を導入した。さらに小児看護過程では電子カルテシステム Medi-EYE を使用し、さらにはF.CESSを使用した記録を実施した。学生の実施状況を把握し、コメントを適宜返し、総評として授業内でアセスメントの視点などのまとめを行っていった。タイムリーにコメントを返すことが難しかったので、次年度の課題である。

5) 小児看護学実習：3年次後期

宍戸路佳、久保恭子、土井庄三郎、濱寄信恵、非常勤講師

目的は、子どもの特徴、成長発達、家族のつながりに対する理解を深め、健やかな育ちにつながる子どもの環境を幅広くとらえ、子どもの健康、成長発達を促進し、健康障害をもつ子どもと家族に対する基礎的な看護実践能力を身につけることである。今年度は新たな実習施設を加え、小児看護を様々な視点から捉えられるように実施した。一部 F.CESS を導入することで、実習記録へかける時間を短縮し、子どもや家族と関わる時間や看護を考える時間を多く持てるようにした。子どもの生活、遊びには視点がもてるが、疾患、治療、入院の影響や関連性と結びつけることが難しい学生も多く指導を要した。

6) 看護教育：4年次後期

久保恭子、宍戸路佳、濱寄信恵

日本の看護教育の変遷、近代看護の発展と災害看護・看護教育との関わり、諸外国と日本との看護教育の相違、看護師の生涯学習の必要性、方法、内容などを説明した。また、生涯学習を継続している看護師から体験談を聞く時間を設け、学生のモデルとなるようにした。さらに、今後看護師として必要となる「なぜ？どうして？」という疑問を持つということ、「考えるとはどのようなことなのか」について、新聞やニュース、地域社会の中で学生の身近にあるものを活用して「考える」ということを体験し、教員・学生間で学びを深めた。

【母性看護学領域】

教育方針

母性看護学では、女性のライフステージ全般にわたる健康の諸問題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、看護を実践する上で基盤となる知識を修得する。看護実践力の育成を目指して、科目は母性看護学概論、母性看護学実践論、母性看護学実習から構成している。

妊娠・分娩・産褥・新生児期の母親、新生児とその家族を対象に、健康を維持・増進するために必要な支援方法を修得することを目的としている。

授業は、教育内容に応じてリアルタイム型オンライン講義と対面授業を組み合わせで実施した。母性看護に関心を持ち、学修に取り組めるように、個別学習とグループワークを取り入れた。また、演習では臨地実習で活かせるように臨床に則した事例を用いて、単に技術の習得にとどまらないなどの工夫をして、目標達成ができるように授業を展開した。

科目名

1) 母性看護学概論:2 年次後期

内田貴峰、小平明日香、吉田亜希子

女性のライフステージ全般にわたる健康の課題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、新生児の誕生に伴う新たな家族形成とその健康課題を理解し、看護を実践する上で基盤となる知識を修得できるように構成した。内容は、リプロダクティブヘルス・ライツ、セクシヤリティ、ライフサイクル各期の看護、保健統計の動向、法整備等であった。授業は、対面で実施した。講義だけではなく、グループワークを通して、母性における課題を自らの課題として考える機会とした。また、グループメンバーとの意見交換を通して学びを共有することで講義内容の理解が深められた。

次年度は、母性看護実践論につなげられるように、また学生が母性看護に興味を持てるように講義を展開する。

2) 母性看護学実践論:3 年次前期

内田貴峰、小平明日香、吉田亜希子

目的は、妊産褥婦及び新生児と家族への支援内容を理解し、援助の方法を学ぶことである。授業はリアルタイム型オンライン講義と対面による講義と演習で展開した。

講義では、学生が母性看護の理解、興味を持てるように、事例を用いてグループワークを取り入れ、講義をおこなった。看護技術の演習では、後期から始まる臨地実習を意識して、母性看護に必要な看護技術を教授した。看護過程の演習では、事例をもとに褥婦と新生児の状況を母子相互作用も含めてアセスメントをし、個別性のある看護を見出せるようグループワークを行った。それぞれの計画を発表しあい、活発に意見交換を行うなど、単に技術習得に終わらないように努めた。

次年度は、災害に関する内容について、非常勤講師を招き母性看護と災害看護に関しての理解を深められる内容を追加する。

3) 母性看護学実習:3 年次前期

内田貴峰、小平明日香、吉田亜希子

実習の目的は、妊産褥婦及び新生児とその家族の健康課題をウェルネスの視点をもってアセスメントして、健康維持・促進できる看護実践能力や保健医療チームの一員として行動する能力を養うことである。産科外来では、妊婦健診の様子や保健指導を学び、病棟では褥婦と新生児を受け持ち、看護過程の展開を学生1人当たり1～2組の母子に実施することができた。学生は、レオポルド触診法、母子の健康診査、授乳介助、沐浴、保健指導の見学、実施、分娩期の援助や分娩見学等の経験ができた。教員は受持ち事例に必要なケアが実施できるように、臨床指導者と連携しながら個々の学生の理解度と解釈の程度を確認して指導を行った。

PCの持ち込み可能な施設については、F. CESSを使用し効率的な指導を行い、看護過程の理解ができるよう適時にやり取りを行う中で、翌日の看護の視点が見出せるようになったと学生の反応もあった。

次年度も引き続き実習期間の中で、妊産褥婦の看護についてウェルネスの視点をもって学びを深めていけるようにサポートをしていく必要がある。

【精神看護学領域】

教育方針

災害時も含めた様々な日常生活場面における精神保健、及び身体・知的・精神障害を持つ人々のセルフケアの回復・維持・増進にむけた看護展開に必要な知識・技術・態度を、講義と演習を組み合わせることにより総合的に学修できるカリキュラム展開を行っている。

また、学生自身の障害者観を社会情勢も含めた様々な方面から深く検討し、看護職として障害を持つ人々への効果的な支援のあり方について探求し続ける態度を身に着けることを目指している。

科目名

1) 精神保健：2 年次前期

村松 仁、小川賀恵

精神健康の維持・増進・回復に関する基礎的な知識を学習し、現代社会における精神健康に関する問題・課題について、心理的・社会的・生物学的な視点から理解することを科目の概要として教授した。到達目標として 1. 精神健康の理解、2. 精神の構造と機能の理解、3. 精神の危機とストレスの理解、4. 現代社会における精神保健の理解を到達目標とした。

講義では、こころの健康について、近年の精神保健で重要視されているストレングスおよびレジリエンスの視点も含めた考え方、精神力動論から捉えたこころの構造と機能、精神健康を脅かす危機とストレス、現代社会における精神保健について講義を行った。講義では、精神保健に関連する実際の出来事(事件)や、著名なアニメーションを教材として活用し、初学者にも馴染みやすくわかりやすい講義展開を心がけた。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニッツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い、講義内容の補

完ができた。次年度は、今年度の教育内容を踏襲し、学生の理解が深まるよう講義を行いたいと考えている。

2) 精神看護学概論：2年次後期

村松 仁、小川賀恵

精神看護学の目的と対象を理解し、精神看護で用いられる基本的な技術と精神看護の歴史から精神看護における人権擁護を学ぶことを目的とし、1.精神健康と精神を病む体験の理解、2.治療的コミュニケーションの理解、3.精神看護における看護理論、3.精神医療における人権擁護の理解を到達目標として講義を行った。

精神を病む体験を持つ人の理解では、精神障害を持つ当事者の出演した動画を教材として使用し、幻覚や妄想などの精神症状を体験することの実際と、精神症状との折り合いの付け方の実際の理解につなげることができた。また、プロセスレコードの目的・意義および記載方法を説明し、精神看護における治療的コミュニケーションの基本的な理解ができた。また、精神看護における看護理論と看護過程、精神医療における人権擁護の重要性を、歴史的背景および法的な側面から教授した。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い講義内容の補完ができた。次年度は、今年度の教育内容を踏襲し、学生の理解が深まるよう講義を行いたいと考えている。

3) 精神看護実践論：3年次前期

小川賀恵、村松 仁、外部講師

精神障害及び精神の健康障害を持つ対象を理解できるよう、主な精神疾患の特徴と治療や精神障害を持つ人に対するリハビリテーション、社会資源、精神症状の観察とアセスメント、回復(リカバリー)を目指した看護について、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。

特に、精神の健康障害を持つ者の回復(リカバリー)を目指した看護について、事例を元に看護過程の基本的な展開が学ぶことができるよう、精神症状と生活障害(セルフケア)の関連の理解と必要な看護計画の立案に係る思考力の向上に努めた。

また、災害時と関連する内容についても理解を深められるよう講義内容を工夫した。本年度は遠隔講義と対面講義を併用し、看護過程の展開にグループディスカッションや発表会を設け、アクティブラーニングの充実を図った。さらに各講義でミニツレポートを記載してもらい、次回講義で補足、フィードバックできるよう工夫を行った。

次年度は今年度に引き続き、精神の健康障害を持つ対象者への看護の理解が深まるようアクティブラーニングを活用し、看護実践力の向上につながるような講義を行いたいと考えている。

4) 障害者看護論:3年次後期

村松仁、小川賀恵、外部講師

障害に関する定義、障害者の対応に関する歴史的・社会的背景と課題を理解し、障害者に対する適切な医療・看護実践のあり方について考察を深めることを目標に講義を行った。講義

では、障害の捉えかた、障害を持つ人に対する歴史的な経緯とその課題の検討、障害を持つ人に対するリハビリテーション等について、視聴覚教材やグループディスカッションを活用し、アクティブラーニングを活用しながら障害の持つ意味および障害を持つ人と看護の役割について学生の考察が深まるよう講義を行った。また、今年度は、社会福祉の実践活動から障害を持つ人を支援することについて前田利恵子先生から、また、神経難病における地域医療支援の実践について、小森哲夫先生から講義を頂き、幅広い障害者支援について教授することができた。

次年度は、障害を持つ人の支援について社会的な見地からの考察が深まるよう、内容を検討し講義をしていきたいと考えている。

5) 精神看護学実習：3 年次後期

小川賀恵、村松 仁、非常勤講師

精神に障害をもつ人を心理社会的・精神的・身体的側面から全人的に理解し、セルフケアの回復に向けた基本的な看護の検討および技術を身に着けることを目的として、国家公務員共済組合連合会立川病院、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院(病棟・デイケア)、公益財団法人井之頭病院(病棟・デイケア)を実習施設として実習を行った。

実習展開は、精神科病棟と精神科デイケアでの実習を組み合わせ、急性期の入院治療から社会復帰・社会参加期の地域精神保健まで、精神障害を持つ人が治療を受け、回復していく時間軸を意識して精神医療における継続支援について理解できるよう工夫を行った。病棟実習では治療的コミュニケーションを活用しながら対象理解を深め、セルフケアの回復に向けた看護実践の理解ができた。また、精神科デイケアでは地域で生活している精神障害者への支援について、当事者との関わりを通し理解を深めることができた。

次年度も精神科病棟と精神科デイケア実習を組み合わせ、精神障害を持つ人に対する入院と地域生活での全人的な支援の理解が深まるよう、実習を進めて行きたいと考える。

6) チーム医療論：4 年次後期（選択必修）

村松仁、小川賀恵、外部講師

チーム医療の意義、目的、運用等の基本的知識を理解し、実際のチーム医療を展開している各医療職種（災害医療センター、診療部長、看護部長）を外部講師として招き、医師および看護部長の立場から実際のチーム医療の展開について講義を頂き、実際のチーム医療の展開について理解を深めることができた。

今年度は全て対面で講義を行い、チーム医療の目的・方法およびチームをビルディングに関する講義、合わせて、チーム医療の展開に関する事例検討のグループディスカッションを行った。

本講義で、学生はチーム医療に関する事例の検討と討議を行うことで、チーム医療の展開についてより深く学習することができた。次年度も今年度の内容継続し、チーム医療に関する学修が深まるように講義を展開したい。

【在宅看護学領域】

教育方針

新カリキュラムとなり2年目を迎えた。地域・在宅看護は、疾病や障害、加齢に伴う変化などを有する人々が自宅やそれに準じた環境で生活できるように看護実践を行うことである。病院か施設か、自宅かそれ以外かと分けて捉えるのではなく、人々が住み慣れた場でその人らしい生活を継続できるためには何が必要かについて、具体的な援助方法な何かをロールプレイングやグループディスカッションを積極的に取り入れた授業を展開した。1年次の講義から外部講師を招き、地域における保健活動や、訪問看護の実際、多職種連携についての授業を取り入れることで、地域包括ケアシステムの理解や地域・在宅看護における現状把握へつながる内容とした。

次年度は、地域で暮らす療養者を広く捉えられ学びが深まることを目指し、公衆衛生学的視点と臨床看護学的視点とのつながりが強化できるよう、見直していくことが課題である。

科目名

1) 地域・在宅看護学概論：1年次後期

長田恵子、岩淵起江、廣畑梓

療養者を含めた地域で暮らす人々を対象ととらえ、その人々への理解とそこで行われる健康の保持・増進に関する制度や地域包括ケアシステムと地域医療の重要性、さまざまな健康レベルの対象者に対する一次予防、二次予防、三次予防の重要性と看護職の役割について理解することを目指した。特に、健康寿命の延伸を目指す一次予防の重要性と在宅看護が必要となる要因について、統計データを読み解きながら、人口構造の変化や制度の改正、価値観の変化や看取りの場の選択など、社会的背景の変化を捉え多様なニーズに基づく在宅看護の重要性について教授した。また、各ライフステージに応じた保健活動と地域・在宅看護について、実際の事例に基づきリアリティのある学びを深めたことで学生の関心を高め、次年度の演習やアクティブラーニングに活かせる授業内容になった。さらに、地域に則した政策や保健・医療・福祉が提供され、それらと連携する看護職の役割の重要性について理解できたと考える。

次年度は、地域での健康と暮らしを支える看護に関心を持ち地域・在宅看護の重要性について学びが深められるよう、課題学習を取り入れていきたいと考えている。

2) 地域・在宅看護支援論：2年次後期

長田恵子、岩淵起江、廣畑梓

地域・在宅看護に関する制度や地域包括ケアシステムの基礎的知識をふまえ、地域・在宅看護実践の主要分野である訪問看護の制度と機能の理解、在宅看護過程、家族支援の基本を学び、多職種連携を基盤としたケアマネジメントと療養移行支援を理解することを目指した。特に、病院の病床機能と看護の特徴をふまえ退院調整や退院支援、訪問看護ステーションでの多様な生活の場における看護について、実際の事例に基づきリアリティのある学びを深めたことで、地域、施設、転院への療養移行の際の支援の基本について理解できたと考える。また、介護保険制度におけるケアマネジメントの提供方法や地域・在宅看護を支える制度の理解に加えて、療養環境整備の方法について、アクティブラーニングによる取り組みから、療養環境を

整える目的と方法を検討する重要性について、学びを深めることができたと考える。

次年度は、多様化・高度化する地域・在宅看護の対象や地域と暮らしの特徴をとらえ、予防のためのセルフケアから、在宅への療養移行支援、介護予防などの理解を深める工夫をしたいと考える。

3) 疾病予防看護学：2年次後期

長田恵子、岩渕起江、廣畑梓

プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念、ライフサイクルに沿った生活習慣病等の予防のための具体的な健康増進方策を理解し、ライフサイクルにそった健康課題について、対象のヘルスリテラシー・エンパワメントを高める健康教育の基本的理論と手法の理解を目指した。特に、健康教育の企画・展開方法では、対象者のライフサイクルの健康課題を焦点化し、対象理解を深めながら対象者の健康に向けた行動変容への働きかけに対する方策についてアクティブラーニングによる取り組みから、主体的に学習できたと考える。また、健康教育の対象者を4つの事例に分け、異なる対象それぞれの取り組みを互いに共有し合い、意見交換するなど学びの共有を図ったことで、多様な人たちを対象とする健康教育の目的や方法について、さらに理解を深められたと考える。

次年度は、共通した健康課題を持つ集団を対象とした健康教育という手法を用いて看護を提供するための企画・展開方法について、学習過程への主体的な参加を促し、学びを深める演習にしていきたいと考える。

4) 自立支援教育論：2年次後期

岩渕起江、廣畑梓

自立支援教育論では、慢性疾患や障害などのさまざまな健康課題を抱えた対象者に対して、課題解決に向けたセルフケア能力・自己効力感を高めるための理論を理解し、自立支援へとつなげる具体的な手法を学ぶことを目指し、講義およびグループワークを実施した。

健康増進の方策、現代における健康課題の特徴、指導上の留意点として対象者の自立を妨げることなく、バイアスを回避し自己決定を促すことの重要性について理解できたと考える。グループワークでは、生活背景・健康課題の異なる2つの事例を提示した。「個人指導」「個人の課題解決」のためには生活背景を的確に捉え、今後予測される健康障害については多くの文献や資料を参照し、対象理解を深めることによって、対象に沿った指導目標・方法の根拠づけができた。学生はグループワークを通し積極的なディスカッションを行い、発表後は理論を活用した指導方法のポイントについて教員が解説した。

健康教育や理論の活用については疾病予防看護学と重複する内容があり、次年度はシラバスを整理し、授業内容を工夫していく必要がある。

5) 在宅看護実践論Ⅰ：3年次後期

岩渕起江、廣畑梓

在宅看護実践論Ⅰは、在宅療養者・家族が安心・安全にそれぞれの生活の質向上および、

各々のニーズに 応じた在宅療養が継続できる在宅療養環境の整備に必要な看護の知識・技術と支援の具体的な展開方法について学ぶことを目指した。

ほとんどの学生が各論実習を終了していることから、入院前・退院後の患者を想起させながら授業を展開した。前半の講義では在宅療養者に多く見られる症例の事例を提示し、在宅看護におけるフィジカルアセスメント、看護実践のポイント、家族支援について講義を実施した。それらの講義をもとに看護過程についてのグループディスカッションを行い、在宅看護についての思考を深められるようにした。後半の講義では各疾患・障害・医療デバイスを使用している療養者の講義を通し、在宅療養者に対する安全・安楽な看護実践について学び理解を深められたと考える。

次年度は在宅看護において使用する物品を活用した演習を増やし、4 年次の各論実習の実践的な学びにつなげたいと考える。

6) 在宅看護実践論Ⅱ：4 年次前期

長田恵子、岩渕起江、廣畑梓

在宅看護実践論Ⅱは、在宅療養者・家族が安心・安全な療養生活を継続するための、在宅ケアシステムの理解、および地域における他機関・多職種との連携について理解すること、を目指す。本講義終了後より開始となる在宅看護学実習へ向け、2 つの演習を行った。1 つは地域包括支援センター実習を想定した「地域診断」の演習を行い、地域や地域住民の特徴について理解を深めた。もう 1 つは訪問看護ステーション実習を想定し、事例展開を行った。事例は在宅看護実践論Ⅰより家族構成や多職種連携に必要性について理解が深まるよう、より具体的な看護過程の展開を行った。訪問の実際には、実習で使用する物品を実際に活用し在宅実習室に演習を実施した。

本科目の約半数が地域診断の演習となっており、次年度は演習の時間配分の見直しが必要である。訪問看護の事例展開では 1 事例のみであったため、経過別・年代別・症状別等の特徴を捉えた複数の事例を提示していく必要があると考える。

7) 在宅看護学実習：4 年次前期

長田恵子、岩渕起江、廣畑梓

地域で生活する療養者とその家族および療養環境に関する理解を深め、健康・生活上の課題とその支援方法について、実践を通して学ぶことを目的とし、地域包括支援センター実習と訪問看護ステーション実習を行っている。昨年までは COVID-19 の影響から、施設実習日数の短縮や訪問件数の制限などがあった。本年からは従来の施設実習が確保できた。

包括支援センター実習はオンラインを活用し、包括支援センターに勤務する看護職から、各地域の現状と課題・地域における施設・看護職の役割や多職種連携の実践について講義を受けた。学生は在宅看護実践論Ⅱにおいて「地域診断」行った地域について講義を受けたことから地域の理解がより深まっていた。訪問看護ステーション実習では、1 名の療養者を受持ち、看護過程の展開を実施した。実習開始当初は在宅療養者の特徴を捉えたコミュニケーションの方法、アセスメント、目標設定に戸惑う場面もあったが、その都度指導者に助言を受け看護を実践

することができた。

学生が受持ち療養者を通して在宅看護の特徴が理解できるよう、次年度も各施設の指導者と連携を深めていきたい。

7. 業績

【看護基盤領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

- 松浦賢長, 小林廉毅, 荻田香苗 他 (2022). コンパクト公衆衛生学, 朝倉書店, 東京
- 長田恵子, 江津繁. (2023). 9章 防災・減災リスクマネジメント 3節災害時の組織体制 1病院における災害時の組織体制. 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美, ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第5版), 247-251, メディカ出版, 東京.
- 長田恵子 (2023). 4章 災害時の支援体制 2項災害医療体制 1 災害拠点病院, 2 医療・保健チーム. 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美, ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第5版), 83-89, メディカ出版, 東京.
- 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美. 編集 (2023). ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第5版), メディカ出版, 東京.

2. 論文等（原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料）

- Ishii T, Nawa N, Doi S, Morio T, Fujiwara T (2023). Association between the initiation of insurance coverage for fetal echocardiography and mortality from congenital heart disease in infants: An interrupted time series analysis. *Paediatr Perinat Epidemiol*. doi: 10.1111/ppe.12984. Online ahead of print. PMID: 37194557
- Yamaguchi Y, Hosokawa S, Haraguchi G, Kajikawa Y, Sakurai M, Ishii T, Ando N, Morio T, Doi S, Furukawa T (2023). The Anti-inflammatory Effects and Clinical Potential of Dexmedetomidine in Pulmonary Arterial Hypertension. *J Pharmacol Exp Ther*. 385(2):88-94. doi: 10.1124/jpet.122.001399. Epub 2023 Feb 27. PMID: 36849413
- 川鍋奈月, 居上愛, 小林優思, 土井一真, 山敷翔, 今井淳子, 三浦由紀子, 堀田昇吾, 高木晴良. (2023) 日本学校に在籍する外国人の防災意識に関連する要因. 東京医療保健大学紀要, 17 (1).
- 堀田昇吾, 作田裕美, 五十嵐隆元, 岩永秀幸, 市田隆雄, 奥田保男, 白石順二, 上野寿子, 太田勝正, 草間朋子. (2024) 病院における放射線防護教育の実態調査. 日本放射線技術学会誌, in press.
- 小西恵美子, 加藤知子, 生田優子, 吉田浩二, 堀田昇吾, 草間朋子. (2023). ICRP 国際シンポジウム “ICRP2023” に参加して, 日本放射線看護学会誌, in press.
- 土井庄三郎, 松原広己, 川口鎮司, 杉村宏一郎 (2023). 新しい肺高血圧症の定義. *Pulm Hypertension Update* 9 (1) : 12-18
- 土井庄三郎 (2023). 医療講座「先天性心疾患と肺高血圧」. 心臓をまもる. 713: 10-13

3. 学会における発表

- 土井庄三郎, 小垣滋豊, 山岸敬幸. 小児期～成人期における肺高血圧症の変遷と連続性. 会長特別企画 2 新生児, 小児から成人までの肺高血圧・肺循環を俯瞰する-移行医療の課題と他の領域へのメッセージ-. 第8回日本肺高血圧肺循環学会学術集会, 2023年6月4日, 神戸
- 土井庄三郎, 石井 卓, 内田敬子, 細川 奨, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 山岸敬幸. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究 JACPHR. シンポジウム 3 本邦から世界へ向けた All-Japan 肺高血圧症レジストリの展望. 第8回日本肺高血圧肺循環学会学術集会, 2023年6月4日, 神戸
- 内田敬子, 住友直文, 石崎怜奈, 石井 卓, 細川 奨, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 区域性肺高血圧症に対する肺高血圧治療薬の効果の違い. 第8回日本肺高血圧肺循環学会学術集会, 2023年6月4日, 神戸
- 石井 卓, 内田敬子, 細川 奨, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 山岸敬幸, 土井庄三郎. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究 JACPHR. 第

59 回日本小児循環器学会学術集会, 2023 年 7 月 6 日, 横浜

細川 奨, 石井 卓, 内田敬子, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 山岸敬幸, 土井庄三郎. 我が国における小児特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症 (IPAH/HPAH)患者の治療の現状; Japan PH Registry (JAPHR). 第 59 回日本小児循環器学会学術集会, 2023 年 7 月 6 日, 横浜

石井 良, 石田秀和, 石井 卓, 内田敬子, 細川 奨, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 山岸敬幸, 土井庄三郎. 高肺血管抵抗の Fontan 術後患者に対する肺血管拡張薬使用の検討. 第 59 回日本小児循環器学会学術集会, 2023 年 7 月 7 日, 横浜

住友直文, 石崎怜奈, 石井 卓, 内田敬子, 細川 奨, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 二心室修復術後に残存する肺高血圧症の臨床像に関する検討: from Japan CHD-PH registry. 第 59 回日本小児循環器学会学術集会, 2023 年 7 月 7 日, 横浜

内田敬子, 住友直文, 石崎怜奈, 石井 卓, 細川 奨, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 先天性心疾患に伴う区域性肺高血圧症に対する薬物治療効果の検討. 第 59 回日本小児循環器学会学術集会, 2023 年 7 月 7 日, 横浜

高月晋一, 石井 卓, 内田敬子, 細川 奨, 石田秀和, 小垣滋豊, 稲井 慶, 福島裕之, 山岸敬幸, 土井庄三郎. JACPHR registry における小さな欠損孔を伴う肺動脈性高血圧症患者の解析. 第 59 回日本小児循環器学会学術集会, 2023 年 7 月 7 日, 横浜

Ishii T, Uchida K, Hosokawa S, Ishida H, Takatsuki S, Kogaki S, Inai K, Fukushima H, Yamagishi H, Doi S. Baseline characteristic of pulmonary hypertension patients with congenital heart disease in Japan: Insights from Japanese association of congenital heart disease with pulmonary hypertension registry (JACPHR). PH Korea 2023 with EASOPH, July 14, 2023, Incheon, Korea

加藤知子, 堀田昇吾, 山口拓允. 放射線診療における放射線防護と看護職の役割を考える—生殖腺防護と核医学診療を受けた患者家族の防護に着目して—(交流集会), 日本放射線看護学会第 12 回学術集会, 2023 年 9 月 10 日, 長崎.

Horita S, Ota K, Konishi E, Sugiura N, Sugai K, Kusama K. Criteria for designating nurses as radiation workers in Japan (Radiological Nursing Society of Japan – report), 7th International Symposium on the System of Radiological Protection, 2023 年 11 月 8 日, Tokyo.

Horita S, Kato T, Sugiura N, Yamaguchi T, Yoshida K, Goto A, Kusama T. Establishment of NuHAT (Nuclear Disaster Health Assistance Team) for nurse-led radiation risk management after the Fukushima nuclear accident, (Radiological Nursing Society of Japan – report) , 7th International Symposium on the System of Radiological Protection, 2023 年 11 月 8 日, Tokyo.

鈴木里実, 北得美佐子, 藤村朗子, 北端恵子, 宇田賀津, 納谷和誠, 山田修平, 堀田昇吾, 松山妙子, 小川賀恵, 穴戸路佳, 三浦由紀子, 荻田明子, 片岡大己, 岩渕起江, 吉田亜希子. 演習・実習記録の電子化による教育 DX/ICT 推進、学修の可視化(交流集会), 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 10 日. 山口.

長田恵子, 堀田昇吾, 高木晴良, 藤村朗子, 高見沢愛弓. 産学と実習施設連携における教育の試み—医療安全学 VR 教材の開発—. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 10 日. 山口.

松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野將尊. COVID-19 下の多様な実習を経験した新卒看護師の実習形態による看護実践能力の違い. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 10 日. 山口.

藤村朗子, 鵜田美奈子, 武下佳代, 荻田明子, 松山妙子, 三浦由紀子, 小川賀恵, 穴戸路佳, 岩渕起江, 内田貴峰, 福田敦子, 高見沢愛弓. 看護系大学と実習施設のシームレスな教育連携の検討—実践的な看護師教育体制の構築に向けた取り組み—(交流集会)第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9-10 日. 山口.

三浦由紀子, 戸田はるか, 尾川華子, 中森知毅, 田巻一義, 大山太, 夏川知輝, 久保達彦. トルコ地震災害での国際緊急援助隊医療チーム Public Health Module (PHM) の活動.

第 29 回日本災害医学会総会・学術集会, 2024 年 2 月 23 日. 京都
 大山太, 三浦由紀子, 東島紋子. 2023 年トルコ地震災害における JDR 医療チーム二次隊
 JDR-MOS(電子カルテシステム)運用管理経験からの考察. 第 29 回日本災害医学会総会・
 学術集会, 2024 年 2 月 23 日. 京都
 石川源, 高村ゆ希, 谷口光代, 竹田津史野, 三浦由紀子, 夏川知輝, 大場次郎, 黒住健
 人. 2023 年トルコ地震に見る JDR 医療チーム派遣における産科診療の現状と課題. 第 29
 回日本災害医学会総会・学術集会, 2024 年 2 月 23 日. 京都
 浅見美空, 和泉愛加, 兼本珠美礼, 前野南帆, 松浦心咲, 水野里彩, 村田愛子, 堀田昇吾,
 高木晴良. 性的マイノリティに対して自治体が行っている避難所運営の備えについて ～その
 実態と関連要因～. 第 29 回日本災害医学会総会・学術集会, 2024 年 2 月 23 日. 京都

4. 研究助成および研究成果報告書

土井庄三郎 (研究代表), 石井 卓, 内田敬子, 住友直文, 石崎怜奈, 石田秀和, 細川 奨,
 高月晋一, 福島裕之, 稲井 慶, 小垣滋豊, 山岸敬幸. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症例
 の多施設症例登録研究, 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)難治性疾患
 実用化研究事業. 2021 年度～2023 年度.
 土井庄三郎 (研究分担), 三谷義英, 安河内聡, 坂本喜三郎, 吉松 淳, 落合亮太, 八尾 厚
 史, 赤木禎治, 檜垣高史, 芳村直樹, 山岸正明, 吉松 淳, 山岸敬幸, 城戸佐知子, 稲井
 慶, 豊野学朋, 白石 公, 大内秀雄. 先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治
 性疾患の救命率の向上と生活にわたる QOL 改善のための総合的研究. 厚生労働科学研究
 難治性疾患政策研究事業. 2019 年度～2023 年度.
 土井庄三郎 (研究分担), 阿部勝巳, 犬塚 亮, 鮎澤 衛, 山岸敬幸, 五十嵐岳宏. 小児心電
 図 AI 診断サポートシステム研究 (GRAIPE): 学校心臓検診における小児心電図の異常検知
 AI 研究. 日本小児循環器学会課題研究. 2023 年度～.
 堀田昇吾. アクティブ・ラーニング手法を用いた放射線看護教育プログラムの開発. 日本学術
 振興会科学研究費補助金, 若手研究. 2019 年度-2023 年度.
 堀田昇吾. 看護における放射線安全文化の醸成を目指した ICT を活用した教育ツールの開
 発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究. 2023 年度-2026 年度.
 作田裕美, 坂口桃子, 中尾富士子, 堀田昇吾, 西山美香. 臨床放射線看護における先駆的
 看護実践に関する検討-Action Research 法による試み. 日本学術振興会科学研究費補助金,
 基盤研究 (C). 2023 年度-2026 年度.
 高野貴子, 高木晴良. 妊娠を希望する人々への基礎データの提供 一流産胎児の染色体異常
 の解析-. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2021 年度-2024 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

長田恵子

- 1) 日本看護協会認定看護師制度委員会委員
- 2) 日本医療安全推進学会代議員
- 3) 東京都看護協会認定看護管理者教育運営委員会委員
- 4) 日本災害看護学会災害看護用語検討委員会委員
- 5) 立川警察署協議会委員
- 6) 日本看護系大学協議会選挙管理委員 2023.11 月～
- 7) 一般社団法人日本災害看護学会第27回年次大会 (2025.9.6-7) 大会長 2023.9～

土井庄三郎

- 1) 肺高血圧症診療のトピックス～新薬の動向と妊娠～. 肺高血圧症治療地域連携講演会.
 持田製薬株式会社. 東京, 2023 年 9 月 26 日.
- 2) 肺循環の A to Z を織るー基礎と臨床の架け橋を学ぶー. 肺高血圧診療改訂ガイドライン
 CHD-PAH 診療ガイドライン. 日本小児循環器学会 第 15 回教育セミナー advanced

course. 大阪, 2024 年 2 月 4 日.

- 3) 肺高血圧症診療のトピックス～2022ESC/ERS ガイドライン発出後の現状, 日本と世界～. 肺高血圧症治療地域連携講演会. 持田製薬株式会社. 東京, 2024 年 3 月 12 日.
- 4) 日本小児循環器学会関連: 理事 (2013 年 8 月～2023 年 7 月), 監事兼名誉会員 (2023 年 8 月～), 学術委員会委員長 (2019 年 8 月～2023 年 7 月), 専門医制度委員会 (2015 年 8 月～2023 年 7 月), 学会と教育の連携委員会 (2021 年 8 月～), 未来予想図委員会委員 (2021 年 8 月～), 小児循環器医療 DX 推進ワーキング (2023 年 8 月～).
- 5) 日本肺高血圧肺循環学会関連: 理事 (2013 年 6 月～2024 年 3 月), 小児循環器連携委員会委員長 (2022 年 4 月～2024 年 3 月) 国際交流委員会 (2022 年 4 月～2024 年 3 月).
- 6) 日本小児科学会関連: 専門医制度管理委員会委員 (2018 年 4 月～), 小児医療提供体制委員会委員 (2020 年 4 月～), 小児領域サブスペ連絡評議会委員 (2023 年 4 月～)
- 7) 日本循環器学会関連: 専門医制度委員会 (2016 年 4 月～), FJCC (2018 年 4 月～).
- 8) 日本心臓病学会関連: FJCS (2015 年 4 月～).
- 9) NPO 法人肺高血圧症レジストリ (JAPHR) 運営会議委員 (2019 年 4 月～).
- 10) 東京循環器小児科治療 Agora (小児循環器東京都地方会) 会長 (2018 年 4 月～).
- 11) 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 専門委員 (2022 年 4 月～).
- 12) 東京都予防医学協会学校保健専門委員 (心臓病) (2003 年 7 月～).
- 13) 東京都医師会都立学校心臓検診判定委員会委員 (2011 年 1 月～).
- 14) マシテンタン小児国内治験プロジェクトアドバイザー (ヤンセンファーマ株式会社) (2021 年 4 月～).
- 15) 国立名誉院長会会員 (2023 年 4 月～)
- 16) 学校心臓一次, 二次検診心電図読影 (東京都予防医学協会, 東京都医師会)
- 17) 学校心臓二次検診診察 (東京都予防医学協会保健会館)
- 18) 東京医科歯科大学非常勤講師 (客員教授): 2019 年 10 月～
- 19) 国立病院機構災害医療センター 非常勤医師: 2023 年 4 月～
- 20) 医療法人社団時正会佐々総合病院 非常勤医師: 2023 年 4 月～

高木晴良

- 1) 生物統計学. 早稲田大学教育学部. 2023 年 4 月～7 月.
- 2) 統合実習 (医療情報). 帝京大学医学部. 2023 年 6 月～7 月.
- 3) 健康管理論. 岐阜県立看護大学. 2023 年 10 月～2024 年 1 月.
- 4) 保健医療福祉行政論. 亀田医療大学. 2023 年 8 月.
- 5) 専任教員研究研修研究技法 (量的研究). 遠隔講義. 2023 年 12 月.
- 6) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 基礎編 I & II. 杏林大学. 2023 年 10 月.
- 7) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 応用編 I & II. 杏林大学. 2024 年 3 月.

堀田昇吾

- 1) 日本放射線看護学会 理事
- 2) 日本放射線看護学会 広報・渉外委員会 副委員長.
- 3) 日本放射線看護学会 学術推進委員会 副委員長.
- 4) 日本放射線看護学会 査読委員
- 5) 日本保健物理学会 コミュニケーション委員会 論文紹介グループ
- 6) 日本看護系大学協議会 (JANPU) 災害連携教員.
- 7) 日本災害看護学会 第 27 回年次大会 事務局.
- 8) 日本災害看護学会 第 27 回年次大会 実行委員.
- 9) 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 人材育成センター「第 4 回放射線看護アドバンス課程」講師 (2023/2/7)
- 10) 出張講義 東京都立松が谷高校 (2023/10/26)

三浦由紀子

- 1) 日本災害医学会 評議員.
- 2) 日本災害医学会 災害看護委員会 委員.
- 3) 第 29 回日本集団災害医学会総会・学術集会. 抄録査読委員. 2024 年 2 月開催.
- 4) 第 29 回日本集団災害医学会総会・学術集会. ポスターセッション コメンテータ. 2024 年 2 月開催.
- 5) 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 隊員
- 6) 能登半島地震災害支援 NPO 法人災害人道支援会 (HuMA) 2024 年 1 月 15 日～1 月 21 日
- 7) 専門職と看護. 山梨大学医学部. 2023 年 10 月.
- 8) 慈生会 野村病院 WOC 看護 コンサルテーション.

6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 長田恵子 (2023). 医療安全管理者のモチベーションを探究. 「医療安全推進」No.0001 (創刊号), 日本医療安全推進学会機関誌. 2023.4, P37-39
- 堀田昇吾, 草間朋子(2023). 原子力災害支援保健チーム(NuHAT)の紹介. Isotope News [No789] 2023 年 10 月号.
- 土井庄三郎 (2023). コロナ禍 3 年間の病院長を経験して. 病院長退職挨拶. 東京医科歯科大学医科同窓会報 300 号発行記念特別号 300: 16.
- 土井庄三郎 (2023). 災害医療センター院長を経験して. 退任院長思い出の記 2024 年 1 月. 全国国立病院院長協議会.
- 土井庄三郎 (2024). 小児科医のキャリア・デザイン～「こども臨床」の魅力を語る. 筑波大学附属小学校医の 20 年間を振り返って. 小児内科 56 (1): 103-106.

【基礎看護学領域】

1. 著書 (翻訳書を含む)

なし

2. 論文等 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

- 松山(山上)妙子, 齋藤益子 (2023). 青年期の性行動と性的自己意識の実態調査, 日本生殖心理学会誌, 9(1), 14-19.
- 小林愛弥, 大久保舞, 金田里香, 吉村優里, 三輪彩乃, 宮崎藍, 平山千夏, 山田真理, 山田真央, 河口渚早, 河原結衣, 森夏帆, 岩満裕子, 松山妙子, 片岡大己 (2023). 聴覚障がい者の自助努力を高めるための一考察—聴覚障がい者のソーシャル・キャピタルと災害自己効力感の実態から—. 東京医療保健大学紀要 18 (1).

3. 学会における発表

- 松山妙子, 齋藤益子. 青年期の性の自己評価の実態調査. 第 42 回日本思春期学会総会・学術集会, 2023 年 8 月 26・27 日, 東京.
- 渡邊はる美, 青木和恵, 糸川紅子. 文献からみる認定看護師におけるコンピテンシーの要素. 第 54 回日本看護学会学術集会, 2023 年 11 月 8, 9 日, 横浜
- 齋藤益子, 菅井敏行, 松山妙子, 川名敬, 三嶋廣繁. 中学生への子宮頸がんおよび HPV ワクチンに関する教育教材の作成と評価. 第 36 回日本性感染症学会学術大会, 2023 年 12 月 2 日, 東京.
- 藤村朗子, 鴫田美奈子, 武下佳代, 荻田明子, 松山妙子, 三浦由紀子, 小川賀恵, 宍戸路佳, 岩渕起江, 内田貴峰, 福田敦子, 高見沢愛弓. 看護系大学と実習施設のシームレスな教育連携の検討—教育と臨床をつなぐ教育体制構築に向けた取り組み—. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9 日, 山口.
- 鈴木里美, 北得美佐子, 藤村朗子, 北端恵子, 宇田賀津, 納谷和誠, 山田修平, 堀田昇吾, 松

山妙子, 小川賀恵, 宍戸路佳, 三浦由紀子, 荻田明子, 片岡大己, 岩渕起江, 吉田亜希子.
演習・実習記録の電子化による教育 DX/ICT 推進、学習の可視化. 第 43 回日本看護科学学会
学術集会, 2023 年 12 月 9 日, 下関

松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野将尊. COVID-19 下の多様な実習を経験した新卒看護
師の実習形態による看護実践能力の違い. 第43回日本看護科学学会学術集会, 2023 年12月
10 日, 山口.

井上慶乃, 相澤ゆずか, 井上ひびき, 金田里香, 尾形真宙, 佐藤なるみ, 佐藤里咲, 鈴木
里菜, 辰井美香, 角田桃花, 遠山栞, 永井櫻子, 萩原日向, 岩満裕子, 松山妙子, 大場
久美. 災害ボランティアとしての学生の特性を活かした人材配置に関する一考察. 第
29 回日本災害医学会総会・学術集会, 2024 年 2 月 24 日, 京都

菅野由貴子, 松谷弘子, 渡邊はる美, 木藤名都, 石川綾子, 大野理紗, 小林紗菜, 小林真央,
小林美愛, 佐伯結菜, 篠崎楓, 高木美月, 長島珠美, 長田莉野, 松原亜優. 女子大学生の非
常用持ち出し袋における生理用品の準備状況とその関連要因. 第 34 回日本医学看護学教育
学会学術学会:2024 年 3 月 2 日, 和歌山

4. 研究助成および研究成果報告書

小川賀恵, 松山妙子, 藤村朗子. 実習指導者の学生へのコミュニケーション教育についての
検討. 2023 年度学長裁量経費. 2023 年 6 月・2024 年.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

岩満裕子

- 1) 非常勤講師「医療人材管理特論」, 早稲田大学大学院, 2023年4月-7月(前期)
- 2) 認定看護管理者セカンドレベル講師, ストレスマネジメント・タイムマネジメント, 群馬県看
護協会, 2023年8月4日
- 3) 認定看護管理者セカンドレベル講師, コンフリクトマネジメント, 国際医療福祉大学, 2023
年7月22日
- 4) 認定看護管理者ファーストレベル講師, チームマネジメント, 埼玉県看護協会, 2023年12
月9日
- 5) 認定看護管理者セカンドレベル講師, ストレスマネジメント・タイムマネジメント, 埼玉県看
護協会, 2023年6月3日
- 6) 認定看護管理者ファーストレベル講師, チームマネジメント, 埼玉医科大学, 2023年9月22
日
- 7) 東京福祉保健財団, 認定看護管理ファーストレベル講師, グループマネジメント, 2023年9
月15日, 20日, 21日
- 8) 公益財団法人東京都福祉保健財団 認定看護管理者研修教育課程委員2018年～
- 9) 模擬講座講師, 看護師としての「看護」「人間」理解, 埼玉県松山女子高等学校, 2023年7
月13日

菅野由貴子

- 1) 日本クリニカルパス学会. 評議員

松山妙子

- 1) 非常勤講師「ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について(講義)」, 東京西徳洲会病院,
2023 年 10 月 17 日、11 月 7 日、11 月 21 日、12 月 5 日
- 2) 非常勤講師「ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について(演習)」, 東京西徳洲会病院,
2023 年 12 月 19 日、2024 年 1 月 9 日
- 3) 非常勤講師「看護研究」, 蕨戸田市医師会看護専門学校, 2023 年4月～5月
- 4) 非常勤講師「障害をもちながら生活する人の看護」, 蕨戸田市医師会看護専門学校, 2023
年 9 月～10 月
- 5) 非常勤講師「成人看護学概論」, 蕨戸田市医師会看護専門学校, 2023 年 12 月～2024 年
1月

- 6) 東京都立府中高等学校 出張講座. (株)さんぽう 2023 年 12 月 19 日
- 7) 非常勤講師「出張講座 性教育」, さいたま市立大宮別所小学校, 2024 年 3 月
- 8) 非常勤講師「出張講座 性教育」, 荒川区第九中学校, 2024 年 3 月
- 9) 日本助産診断実践学会 常任幹事 編集委員
- 10) 一般社団法人日本母子看護学会 常任幹事 会計委員
- 11) 一般社団法人日本生殖心理学会 評議員
- 12) 一般社団法人日本災害看護学会第 27 回年次大会企画委員会事務局委員、実行委員
- 13) 医療法人社団 埼友会 埼友草加病院 看護アドバイザー

大場久美

- 1) 災害時のトイレ対応. ケアハウス アドナイ館. 2023 年 11 月 27 日.
- 2) 災害に備える. 立川市南部西ふじみ地域包括支援センター. 2023 年 1 月 13 日.

c6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)
なし

【成人老年看護学領域】

1. 著書 (翻訳書を含む)

内藤亜由美 (2024). 業務改善お役立ちマニュアル日常生活の世話 (WOC の視点での体位変換), ナーシングビジネス (2024 年春季増刊), 70-79, メディカ出版, 東京.

2. 論文等 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

Naito A, Okuwa M (2023). Longitudinal observational study on postoperative incisions in abdominal digestive surgery using thermography. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management*, 27 (4), 590-604.

Satoh M, Fujimura A, Miyagawa S (2023). Difficulties and innovations in teaching anatomy and physiology in nursing. *Nurse Education in Practice*. 67, 2023 Feb, doi:10. 1016/j. nepr. 2023. 103551.

3. 学会における発表

青木和恵, 佐藤文, 糸川紅子, 丸尾郁, 水島史乃, 櫻井和江, 佐藤明子, 武井尚子, 田中悠美. WOCN と看護師の連携によるストーマ保有者への柔軟な支援のための検討. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 2023 年 7 月 8 日-7 月 9 日, 宮城県.

岩渕起江, 櫻井敬子. 急性期病院における認知症高齢者の退院支援に関する研究の動向. 第 17 回日本慢性看護学会学術集会, 2023 年 8 月 10 日. 川崎.

長田恵子, 高木晴良, 高見沢愛弓, 藤村朗子, 堀田昇吾. 産学と実習施設連携における教育の試みー医療安全学 VR 教材の開発ー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9 日, 山口.

櫻井敬子, 荒木暁子, 大田えりか, 藤巻知美. 中堅看護師の多重課題に関するスコーピングレビュー. 第 27 回日本看護管理学会学術集会, 2023 年 8 月 26 日, 東京.

佐藤みほ, 佐藤菜保子, 藤村朗子. 看護系大学教員のコンピテンシーを育み, 支える環境を考えよう. 第 33 回日本看護学教育学会学術集会 (交流セッション), 2023 年 8 月 26 日, 福岡.

佐藤みほ, 荒武喜子, 佐藤菜保子, 高橋知彦, 田村紀子, 藤村朗子. 看護系大学教員のコンピテンシーと心理的安全性との関連-仕事への向き合い方と個人資源に着眼して-. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9 日, 山口.

Satoh M, Satoh N, Fujimura A, Tamura N. Relationship between competencies, psychological safety, and faculty positions among academic nurse educators in Japan. EAFONS2024. Hong Kong.

鈴木里美, 岩渕起江, 宇田賀津, 内田貴峰, 小川賀恵, 片岡大己, 荻田明子, 北得美佐子, 北端恵子, 宍戸路佳, 納谷和誠, 藤村朗子, 堀田省吾, 松山妙子, 三浦由紀子, 山田修平, 吉田亜希子. 演習・実習記録の電子化による教育 DX/ICT 推進, 学修の可視化. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 2023 年 12 月 9 日. 下関.

谷田瞳, 安生真菜, 石橋由梨, 伊野祐希, 岩尾織磨, 内田結菜, 大橋美友, 小林美海, 佐々木萌, 高橋穂夢, 寺脇涼香, 長坂翔, 野原花梨, 櫻井敬子, 藤村朗子, 荻田明子, 泥谷朋子. 首都直下地震に備える血液透析患者の実態調査. 第 29 回日本災害医学会総会・学術集会, 2024 年 2 月 22 日. 京都.

内藤亜由美, 青木和恵, 折元美雪, 坂上雅子, 山岸茂, 吉田奈々絵, 吉原千佳. 災害時用ストーマ装具の備蓄ができない理由に一時的ストーマと永久的ストーマで違いはあるのか: KJ 法による分析. 第 41 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2024 年 2 月 9 日-2 月 10 日, 神奈川県.

内藤亜由美. シンポジウム 1 たゆまぬ努力から生まれる未来に続く WOC ケア～在宅や地域での WOC ケア拡充を目指して～. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 2023 年 7 月 8 日, 仙台.

内藤亜由美. シンポジウム 1 コロナが褥瘡管理をどう変えたのか～after コロナの課題: 在宅編～. 第 25 回日本褥瘡学会学術集会. 2023 年 9 月 1 日, 神戸.

内藤亜由美. シンポジウム 7 褥瘡のエキスパートが考える DESIGN-R 以外の観察. 第 25 回日本褥瘡学会学術集会. 2023 年 9 月 2 日, 神戸.

内藤亜由美. 在宅医療委員会/渉外・学会連携委員会企画在宅症例から抽出した問題点を徹底討論～何に困った? 何がわからない?. 第 25 回日本褥瘡学会学術集会. 2023 年 9 月 2 日, 神戸.

平岡未帆, 安西涼雲, 坂井梓, 高嶋杏, 山崎帆夏, 青木和恵, 折元美雪, 内藤亜由美. COVID-19 パンデミック下の非臨地実習に WOCN が参画することによる可能性と影響: SCAT 分析による質的研究, 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 2023 年 7 月 9 日, 宮城県.

藤巻知美, 荒木曉子, 大田えりか, 櫻井敬子. 発達障害とアレルギー疾患を併せもつ子どもの問題と親の疾患管理. 負担や対処に関するスコーピングレビュー. 小児看護科学学会学術集会, 2023 年 7 月 15 日. 横浜.

藤村朗子, 岩渕起江, 内田貴峰, 小川賀恵, 荻田明子, 宍戸路佳, 高見沢愛弓, 武下佳代, 鍋田美奈子, 福田敦子, 松山妙子, 三浦由紀子. 看護系大学と実習施設のシームレスな教育連携の検討ー教育と臨床をつなぐ教育体制構築に向けた取り組みー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 2023 年 12 月 9 日. 下関.

松山妙子, 田野将尊, 藤村朗子, 三浦由紀子. COVID-19 下の多様な実習を経験した新卒看護師の実習形態による看護実践能力の違い. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9 日, 山口.

吉田奈々絵. 新型コロナウイルス対策による面会制限が循環器病棟の家族看護に与える影響. 第 20 回日本循環器看護学会学術集会. 2023 年 9 月 16 日. オンライン.

4. 研究助成および研究成果報告書

小川賀恵, 藤村朗子, 松山妙子. 実習指導者の学生へのコミュニケーション教育についての検討, 2023 年度学長裁量経費.

佐藤みほ, 井庭崇, 佐藤菜保子, 藤村朗子, 宮川祥子. 看護師のアセスメントプロセスの可視化に基づく AI を活用した学習支援システムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2021 年度-2024 年度.

藤村朗子, 長田恵子, 荻田明子, 堀田昇吾. VR (virtual reality) 教材作成プロジェクトー手術看護を VR でリアルに学ぼうー. 2023 年度学長裁量経費.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

青木和恵

- 1) 皮膚のアセスメントとケア. 静岡県県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程. 非常勤講師. 2023 年 8 月 1 日.
- 2) 看護師のための緩和ケア研修会. 日本緩和医療学会. 講師. 2023 年 11 月 11 日.
- 3) ストーマケア研修会. 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター看護部. 講師. 2023 年 11 月 17 日.
- 4) ストーマケア研修会. 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター看護部. 講師. 2023 年 12 月 22 日.
- 5) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 理事.
- 6) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 学術教育委員会. 委員.
- 7) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 評議員選出検討委員会. 委員長.
- 8) 日本褥瘡学会. 評議員.
- 9) 日本褥瘡学会. 学術委員会. 委員.
- 10) 日本褥瘡学会褥瘡認定師.
- 11) 日本がん看護学会. 代議員.
- 12) 日本がん看護学会. 査読委員.

藤村朗子

- 1) 日本クリティカルケア看護学会 専任査読委員 2017 年 9 月～現在
- 2) 日本アディクション看護学会 査読委員 2019 年～現在
- 3) 日本エンドオブライフケア学会 編集委員 2020 年 9 月 1 日～現在
- 4) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター客員研究員(行動医学研究部) 2019 年～2024 年 3 月
- 5) 日本看護学会－急性期看護－論文選考委員.2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日.
- 6) 日本救急看護学会 倫理委員会 救急看護倫理セミナー(中級)ファシリテーター2023 年 5 月 30 日
- 7) 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会査読委員 2023 年 3 月～7 月
- 8) 第 20 回日本循環器看護学会学術集会事務局長 2022 年 4 月～2024 年 2 月
- 9) 第 20 回日本循環器看護学会学術集会企画委員 2022 年 4 月～9 月
- 10) 第 20 回日本循環器看護学会学術集会査読委員 2023 年 3 月～7 月
- 11) 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 一般演題(口演)「COVID-19 看護」座長.2023 年 7 月 2 日.東京
- 12) 教育講演「優しさを伝える看護の技術: ユマニチュード」. 第 20 回日本循環器看護学会学術集会 座長. 2023 年 9 月 17 日. オンライン開催.
- 13) 日本クリティカルケア看護学会 利益相反委員会
- 14) 日本救急看護学会 国際交流委員会
- 15) 第 27 回日本災害看護学会学術集会 企画委員 2024 年 2 月～現在
- 16) 社会福祉法人恩賜財団済生会「准看護師に係る実態調査」共同研究者

内藤亜由美

- 1) 横浜市立大学客員講師.
- 2) 静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程講師.
- 3) 藤沢市民病院非常勤看護師.
- 4) 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会. 理事.
- 5) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. 評議員.
- 6) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会学会. 学会誌編集委員.
- 7) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. ガイドライン委員.
- 8) 一般社団法人日本フットケア・足病医学会. 在宅医療委員.
- 9) 一般社団法人日本褥瘡学会. 評議員.
- 10) 一般社団法人日本褥瘡学会. 渉外・学会連携委員.
- 11) 一般社団法人日本褥瘡学会. 在宅医療委員.

- 12) 一般社団法人日本褥瘡学会. 保険委員.
- 13) 看護系学会等社会保険連合. 介護報酬体系のあり方に関する検討委員.
- 14) 看護系学会等社会保険連合. 看護技術検討委員.
- 15) 看護系学会等社会保険連合. 診療報酬体系のあり方に関する検討委員.
- 16) 一般社団法人日本褥瘡学会. 在宅セミナー世話人.
- 17) 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会査読委員.
- 18) 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会. 評議員.
- 19) 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 評議員.
- 20) 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 利益相反委員.
- 21) 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 論文賞・研究助成選考委員.
- 22) 日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 幹事.
- 23) 日本褥瘡学会関東甲信越地方会. 神奈川県支部副代表.
- 24) 日本在宅医療連合学会. 日本在宅医療連合学会在宅 NPWT 認定制度企画運営ワーキンググループ.
- 25) 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発研究推進事業）特定行為研修の修了者の活用に関する研究. 研究協力者.
- 26) 学研メディカルサポート特定行為研修区分別科目 創傷関連. 褥瘡および創傷治癒と排泄管理. 2022 年 4 月 1 日～WEB 配信中.
- 27) 看護形態機能学 皮膚の構造と機能. 横浜市立大学. 2023 年 4 月 17 日.
- 28) 内藤亜由美. 特別企画 2 座長. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 2023 年 7 月 8 日. 仙台.
- 29) 内藤亜由美. 一般演題 座長. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 2023 年 7 月 9 日. 仙台.
- 30) 看護形態機能学 皮膚の構造と機能 演習. 横浜市立大学. 2023 年 7 月 24 日.
- 31) 褥瘡 WEB セミナー. 科研製薬 (WEB). 2023 年 8 月 2 日.
- 32) 認定看護師教育課程創傷管理関連 褥瘡の分類, アセスメント・評価. 静岡県立がんセンター認定看護師教育課程. 2023 年 8 月 16 日.
- 33) 認定看護師教育課程創傷管理関連 治癒のアセスメントとモニタリング. 静岡県立がんセンター認定看護師教育課程. 2023 年 8 月 16 日.
- 34) 認定看護師教育課程創傷管理関連 リスクアセスメント. 静岡県立がんセンター認定看護師教育課程. 2023 年 8 月 16 日.
- 35) 第 25 回日本褥瘡学会学術集会. ワークショップ 1 司会. 2023 年 9 月 1 日. 神戸.
- 36) 第 25 回日本褥瘡学会学術集会. ワークショップ 2 司会. 2023 年 9 月 1 日. 神戸.
- 37) 第 30 回褥瘡・創傷管理オンライン研修会 両足に骨に至る潰瘍を有する禁煙ができない下肢閉塞性動脈硬化症, 糖尿病, COPD 患者への関わり～Value based practice の視点から～. 一般社団法人日本在宅医療連合学会 (WEB). 2023 年 12 月 19 日.
- 38) 一般演題 座長. 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会第 12 回学術集会. 2023 年 9 月 17 日. 金沢.
- 39) 2022 年度臨床スキンケア看護師講習会ハイリスク患者のスキンケア. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 2023 年 4 月 1 日-4 月 30 日. オンデマンド配信.
- 40) 教育講演「エンドオブライフの褥瘡予防」. 第 10 回全国介護・終末期リハ・ケア研究会研究大会 2023 in 東京 (WEB).

櫻井敬子

- 1) 2023 年度日本看護学会誌. 査読委員. 2023 年 4 月 1 日-2024 年 3 月 31 日.

折元美雪

- 1) 日本糖尿病教育・看護学会. 専任査読者. 2020 年 10 月 13 日-2024 年 9 月 30 日.
- 2) 地域交流会. NPO 法人誠仁会主催. 企画事務局. 2023 年 8 月 20 日.
- 3) 納涼会. 学生ボランティア顧問. 社会福祉法人 奉優会目黒区高齢者センター. 2023 年

8月26日.

泥谷朋子

- 1) シンポジウム「学会発表フェスティバル」. 2023 年度日本救急看護認定看護師会 第 1 回
ブラッシュアップセミナー 座長. 2023 年 6 月 11 日. Web.
- 2) 災害看護学. 筑波大学非常勤講師. 2023 年 7 月 1 日～8 月 31 日
- 3) 一般社団法人日本救急看護学会. 評議員.
- 4) 一般社団法人日本救急看護学会. 災害看護委員会.
- 5) 一般社団法人日本救急看護学会. 査読委員.
- 6) 一般社団法人日本救急看護学会. 災害看護初期対応セミナー インストラクター.
- 7) 日本クリティカルケア看護学会 第 19 回学術集会. 運営委員.

【小児看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

- 有満亜希子, 久保恭子 (2023). 3 年過程看護専門学校学生のレディネスを把握するための教授活動－教員経験年数による教授活動の違い－. 東京都立看護専門学校紀要, 9 (1), 1-11
- 萬田律子, 久保恭子 (2023). 小児看護学授業開始早期の保育園見学が看護学生の学習に与えた影響. 東京都立看護専門学校紀要, 9 (1), 12-21
- 小倉美絵, 久保恭子 (2023). COVID-19 流行下の学生の実習での体験－基礎看護学の学内代替実習と老年看護学実習 I の臨地実習－. 東京都立看護専門学校紀要, 9 (1), 22-31
- 久保恭子, 坂口由紀子 (2023). ムコ多糖児(者)の在宅酵素補充療法の可能性と課題. 日本在宅医療連合学会誌, 4 (2), 16-21
- 小平明日香, 及川裕子, 久保恭子 (2023). COVID-19 感染拡大下での出産・産後サポート状況と母親の児への愛着形成との関連. 母性衛生, 64 (2), 316-323
- 小平明日香, 及川裕子, 久保恭子 (2023). コロナ禍での母親のエゴ・レジリエンスと愛着との関連. 家族保健研究会誌, 2 (1), 12-19
- 坂口由紀子, 久保恭子 (2023). 希少難病ムコ多糖症患者の成長・発達による疾患の進行に伴う健康障害と在宅支援の課題. 家族保健研究会誌, 2 (1), 2-11
- 久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子 (2023). 「在宅重症心身障がい者の親の支援なき後の居場所と自立支援」に関するシンポジウムの実践報告. 家族保健研究会誌, 2 (1), 28-39
- 濱寄信恵, 及川裕子, 久保恭子 (2023). 不妊治療終結を巡る夫婦の相互作用. 家族保健研究会誌, 2 (1), 20-28
- Sakaguchi Y, Kubo K (2023). The Experiences and Challenges of Mothers of Adult Patients with Mucopolysaccharidosis; Mothers of Adults with Severe Mucopolysaccharidosis. *Asian Journal of Human Services* vol25, 67-81
- 日比野直子, 久保恭子 (2023). 在宅重症心身障碍児・者の親が介護力を低下する前に訪問看護師が行う支援内容の明確化. 日本健康医学会雑誌, 32(4), 463-469

3. 学会における発表

- 久保恭子, 濱寄信恵. 保育所を利用する医療的ケア児をもつ母親の体験. 第 29 回日本保育保健学会, 2023 年 5 月 20.21 日, 長崎県長崎市.
- 久保恭子, 坂口由紀子. MECP2 症候群児の成長・発達の特徴と看護の課題. 第 70 回日本小児保健学会, 2023 年 6 月 16-18 日, 神奈川県川崎市.
- 日比野尚子, 久保恭子, 野呂千鶴子. 要配慮者を水害から守るために地域の看護職が取り組む課題 ～国内外の文献検討～. 第 25 回日本災害看護学会. 2023 年 9 月 2.3 日, 兵庫県

姫路市。

中北裕子，日比野尚子，久保恭子，野呂千鶴子．災害支援を行った看護職者による想定外だった体験に関する課題と対処．第 25 回日本災害看護学会．2023 年 9 月 2.3 日，兵庫県姫路市。

小平明日香，及川裕子，久保恭子．災害時の母子避難に関する文献検討．第 64 回日本母性衛生学会．2023 年 10 月 13.14 日，大阪府大阪市。

日比野尚子，久保恭子，野呂千鶴子．在宅重症心身障害児・者の親が介護力を低下する前に訪問看護師が行う支援内容の明確化．第 28 回日本在宅ケア学会学術集会．2023 年 11 月 11.12 日，大阪府吹田市。

宍戸路佳，久保恭子，坂口由紀子．親の支援なき後の在宅重症心身障がい者の居場所の移行支援プログラムの開発．第 28 回日本在宅ケア学会学術集会．2023 年 11 月 11.12 日，大阪府吹田市。

草間真由美，久保恭子．NPO 法人 子どもの虐待防止ネット・にいがたの活動と取り組み．日本子ども虐待防止学会第 29 回学術集会滋賀大会．2023 年 11 月 25.26 日，滋賀県大津市。

野呂千鶴子，日比野直子，久保恭子．東日本大震災とそれに伴う原発災害の被災地域医療従事者の経験から捉える心理面の変化．第 43 回日本看護科学学会．2023 年 12 月 9 日，山口県下関市。

日比野直子，野呂千鶴子，久保恭子．福島原発事故による想定外の被害に対処した看護職が捉えた地域の医療を支える看護職への期待．第 43 回日本看護科学学会．2023 年 12 月 9 日，山口県下関市。

宍戸路佳，久保恭子，坂口由紀子．65 歳以上の方の防災対策の現状と課題．第 43 回日本看護科学学会．2023 年 12 月 9 日，山口県下関市。

久保恭子，坂口由紀子，宍戸路佳．在宅で生活をする高度医療依存児・者の災害を想定した自宅内避難の準備．第 43 回日本看護科学学会．2023 年 12 月 9 日，山口県下関市。

鈴木里実，北得美佐子，藤村朗子，北端恵子，宇田賀津，納谷和誠，山田修平，堀田昇吾，松山妙子，小川賀恵，宍戸路佳，三浦由紀子，荻田明子，片岡大己，岩渕起江，吉田亜希子．演習・実習記録の電子化による教育 DX/ICT 推進、学修の可視化．第 43 回日本看護科学学会交流集会．2023 年 12 月 9 日，山口県下関市。

藤村朗子，鵜田美奈子，武下佳代，荻田明子，松山妙子，三浦由紀子，小川賀恵，宍戸路佳，岩渕起江，内田貴峰，福田敦子，高見沢愛弓．看護系大学と実習施設のシームレスな教育連携の検討ー教育と臨床をつなぐ教育体制構築に向けた取組みー．第 43 回日本看護科学学会交流集会．2023 年 12 月 9 日，山口県下関市。

4. 研究助成および研究成果報告書

久保恭子．在宅で生活する重症心身障害児・者の親亡きあとの居場所・生活支援の移行とシームレスな自立支援モデルの検討．勇美記念財団，基盤研究 (C)．2021 年度-2023 年度。

岸田泰子，久保恭子．迅速かつ簡便な月経状況測定ツールを用いた青年期女性への健康支援戦略の検討．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究 (C)．2023 年度-2026 年度。

岸田泰子，久保恭子．倫理的問題を含む高度生殖医療における看護教育およびケア指針の作成．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究 (C)．2019 年度-2023 年度。

坂口由紀子，久保恭子，宍戸路佳．在宅難病児(者)の移行期支援とコーディネートにおける役割の明確化．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究 (C)．2022 年度-2025 年度。

宍戸路佳，久保恭子，濱寄信恵．学長裁量費．心温かい医療人育成にむけた学生のボランティア経験と思いやり行動への影響．2023 年度。

5. 社会貢献 (学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等)

久保恭子

- 1) 災害時の応急処置・胸部圧迫・AED 蘇生法講習．ご近所で BOSAI．年 4 回実施。
- 2) せっけんづくり．東京医療保健大学小児看護学領域．2023 年 8 月 24 日。
- 3) 練馬ヨガ．家族保健研究会．月 3 回実施。

- 4) 障がい者の家族向けの Zoom ヨガとおしゃべりタイム. 家族保健研究会. 月 2 回実施.
- 5) 子どもの虐待予防のための講座. 日総研. 2024 年 3 月 8 日.
- 6) MEC2P2 重複症候群東海エリア交流会. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2023 年 4 月 26 日.
- 7) MEC2P2 重複症候群ミニキャンプ ボランティア. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2023 年 8 月 5・6 日.
- 8) MPS 交流会ボランティア. ムコ多糖症患者家族会. 2023 年 8 月 19 日.
- 9) 埼玉県小児慢性特性疾患児との交流会. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2024 年 2 月 23 日.
- 10) グループホームとうもろろ急処置講座実施. 非特定営利法人とうもろろ. 2023 年 9 月 2.10 日, 10 月 22 日.
- 11) うさちゃんカフェ 離乳食・幼児食講座. 港区子育て支援. 2023 年 6 月, 2024 年 2 月.
- 12) 子どもに多い事故と応急処置. 多摩市ファミリーサポート. 2023 年 10 月 21 日.
- 13) MFA 講習. 日総研. 2023 年 10 月 7 日.
- 14) 日本災害看護学会. 理事・評議員.
- 15) 日本ムコ多糖症患者家族の会. 顧問.
- 16) 日本災害看護学会 25 回大会. 査読委員会.
- 17) 日本災害看護学会誌査読委員 (2023 年 9 月まで).
- 18) 日本小児看護学会誌査読委員.

穴戸路佳

- 1) 災害時の応急処置・胸部圧迫・AED 蘇生法講習. ご近所で BOSAI. 年 4 回実施.
- 2) せっけんづくり. 東京医療保健大学小児看護学領域. 2023 年 8 月 24 日.
- 3) 練馬ヨガ. 家族保健研究会. 月 3 回実施.
- 4) 障がい者の家族向けの Zoom ヨガとおしゃべりタイム. 家族保健研究会. 月 2 回実施.
- 5) 子どもの虐待予防のための講座. 日総研. 2024 年 3 月 8 日.
- 6) MEC2P2 重複症候群東海エリア交流会. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2023 年 4 月 26 日.
- 7) MEC2P2 重複症候群ミニキャンプ ボランティア. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2023 年 8 月 5・6 日.
- 8) MPS 交流会ボランティア. ムコ多糖症患者家族会. 2023 年 8 月 19 日.
- 9) 埼玉県小児慢性特性疾患児との交流会. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2024 年 2 月 23 日.
- 10) グループホームとうもろろ急処置講座実施. 非特定営利法人とうもろろ. 2023 年 9 月 2.10 日, 10 月 22 日.
- 11) うさちゃんカフェ 離乳食・幼児食講座. 港区子育て支援. 2023 年 6 月, 2024 年 2 月.
- 12) 子どもに多い事故と応急処置. 多摩市ファミリーサポート. 2023 年 10 月 21 日.
- 13) MFA 講習. 日総研. 2023 年 10 月 7 日.
- 14) グループホームとうもろろ. 顧問・看護アドバイザー.
- 15) 日本アディクション看護学会. 編集委員.

濱寄信恵

- 1) 災害時の応急処置・胸部圧迫・AED 蘇生法講習. ご近所で BOSAI. 年 4 回実施.
- 2) せっけんづくり. 東京医療保健大学小児看護学領域. 2023 年 8 月 24 日.
- 3) 練馬ヨガ. 家族保健研究会. 月 3 回実施.
- 4) 障がい者の家族向けの Zoom ヨガとおしゃべりタイム. 家族保健研究会. 月 2 回実施.
- 5) 子どもの虐待予防のための講座. 日総研. 2024 年 3 月 8 日.
- 6) MEC2P2 重複症候群東海エリア交流会. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2023 年 4 月 26 日.
- 7) MEC2P2 重複症候群ミニキャンプ ボランティア. MEC2P2 重複症候群患者家族会. 2023 年 8 月

5・6 日.

- 8) MPS 交流会ボランティア. ムコ多糖症患者家族会. 2023 年 8 月 19 日.
- 9) 埼玉県小児慢性特性疾患児との交流会. MECP2 重複症候群患者家族会. 2024 年 2 月 23 日.
- 10) グループホームとうもろろ応急処置講座実施. 非特定営利法人とうもろろ. 2023 年 9 月 2.10 日, 10 月 22 日.
- 11) うさちゃんカフェ 離乳食・幼児食講座. 港区子育て支援. 2023 年 6 月, 2024 年 2 月.
- 12) 子どもに多い事故と応急処置. 多摩市ファミリーサポート. 2023 年 10 月 21 日.
- 13) MFA 講習. 日総研. 2023 年 10 月 7 日.
- 14) 日本ムコ多糖症患者家族の会.

【母性看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

- 小平明日香，及川裕子，久保恭子（2023）. COVID-19 感染拡大下での出産・産後サポート状況と母親の児への愛着形成との関連. 母性衛生, 64, 316-323.
- 小平明日香，及川裕子，久保恭子（2023）. コロナ禍での母親のエゴ・レジリエンスと愛着との関連. 家族保健研究会誌, 2, 12-19.
- 岡田美都，熊谷颯太，黒澤範子，吉田亜希子（2024）. 生後 4 か月児をもつ母親の災害時における授乳行動に関する知識と備えの実態. 母性衛生, 64(4), 763-769.

3. 学会における発表

- 内田貴峰，米山万里枝. 妊娠から育児への移行期にある夫婦の関係調整を構築するための支援方法の検討. 第 64 回日本母性衛生学会学術集会, 2023 年 10 月 13-14 日, 大阪.
- 石川裕貴，内田貴峰. 母性看護学演習「褥婦の看護」にシミュレーション教育を取り入れた学習方法の実践報告, 第 5 回日本看護シミュレーション学術集会, 2024 年 2 月 12 日, 東京.
- 小平明日香，及川裕子，久保恭子. 災害時における母子避難に関する文献レビュー. 第 64 回日本母性衛生学会, 2023 年 10 月 13-14 日, 大阪.
- 小平明日香，加藤恵利奈. 母親たちが希望する産後ケアの検討（優秀演題賞）. 第 39 回埼玉母性衛生学会, 2023 年 11 月 12 日, 埼玉.
- 吉田亜希子. 母性看護学実習を履修する看護学生の「新生児に触れる」ことへの戸惑いとその克服. 日本看護科学学会第 43 回学術集会, 2023 年 12 月 9-10 日.
- 鈴木里美，北得美佐子，藤村朗子，北端恵子，宇田賀津，納谷和誠，山田修平，堀田昇吾，松山妙子，小川賀恵，宍戸路佳，三浦由紀子，荻田明子，片岡大己，岩渕起江，吉田亜希子. 演習・実習記録の電子化による教育 DX/ICT 推進、学習の可視化. 日本看護科学学会第 43 回学術集会，交流集会, 2023 年 12 月 9-10 日，下関.

4. 研究助成および研究成果報告書

特になし

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

内田貴峰

- 1) 家庭教育講座「子育てをパートナーと、ともに楽しむために」(講義、演習)，立川市子ども家庭部子育て推進課，講師, 2023 年 10 月 7 日, 2024 年 1 月 27 日
- 2) 公立昭和病院運営協議委員会委員

小平明日香

- 1) さいたま市子育て支援センターよの. 親子防災講座. 講師. 2023 年 11 月 19 日
- 2) さいたま市子育て支援センター大宮. 親子防災講座. 講師. 2024 年 3 月 3 日
- 3) 医療法人白秀会 加藤クリニック「産後ケア」勉強会. 講師. 2023 年 12 月 14 日.
- 4) 災害時の応急処置講習会 ご近所で BOSAI. 2023 年 8 月 5 日.
- 5) 埼玉県助産師会さいたま市地区災害対策委員

吉田亜希子

- 1) 愛媛大学 ALSO プロバイダーコース. 愛媛大学医学部附属病院主催. インストラクターキャンディデイト. 2023 年 10 月 7-8 日.
- 2) 東京ベイ・市川浦安医療センター ALSO プロバイダーコース. PC 学会主催. インストラクターキャンディデイト. 2024 年 2 月 24-25 日.
- 3) つくば ALSO プロバイダーコース. 筑波大学医学部附属病院主催. インストラクターキャンディデイト. 2024 年 3 月 2-3 日.
- 4) 群馬大学 ALSO プロバイダーコース. 群馬大学医学部附属病院主催. インストラクターキャンディデイト. 2024 年 3 月 16-17 日.

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等）

特になし

【精神看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

特になし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

特になし

3. 学会における発表

小川 賀恵，村松 仁，森 千鶴. 地域で生活する精神障害者への災害対策支援の実態，第 43 回日本看護科学学会学術集会，2023 年 12 月，下関.

村松仁，小川賀恵，田野将尊. 精神看護学教育におけるシミュレーション教育の文献検討，第 43 回日本看護科学学会学術集会，2023 年 12 月，下関.

藤村朗子，鵜田美奈子，武下佳代，荻田明子，松山妙子，三浦由紀子，小川賀恵，宍戸路佳，岩渕 起江，内田貴峰，福田敦子，高見沢愛弓. 看護系大学と実習施設のシームレスな教育連携の検討，教育と臨床をつなぐ教育体制構築に向けた取組み，第 43 回日本看護科学学会学術集会，2023 年 12 月，下関.

茅根寛子，渡辺純一，會澤寛武，田野将尊，佐藤美保，浅沼瞳，小川賀恵. コロナ禍における精神看護学実習について語り合おう，第 48 回日本精神科看護学術集会，2023 年 6 月，北海道.

4. 研究助成および研究成果報告書

小川賀恵. 地域生活を送る精神疾患患者の心理的災害耐性を高める防災・発災手帳の作成. 日本学術振興会科学研究費補助金，若手研究. 2020 年度-2023 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

村松 仁

- 1) 東京医療保健大学・立川市共催公開講座 講師「悩みってどう聞くの？悩みの聞き方を学びましょう」(2023 年 12 月 16 日)

小川賀恵

- 1) 東京医療保健大学・立川市共催公開講座 講師「悩みってどう聞くの？悩みの聞き方を学びましょう」(2023 年 12 月 16 日)

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

- 小川賀恵 (2023). メディカコンクール 第 113 回看護師国家試験対策テスト第 1 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 小川賀恵 (2023). メディカコンクール 第 113 回看護師国家試験対策テスト第 2 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 小川賀恵 (2023). メディカコンクール 第 113 回看護師国家試験対策テスト第 3 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成

【在宅看護学領域】

1. 著書(翻訳書を含む)

特になし

2. 論文等(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

特になし

3. 学会における発表

- 藤村朗子, 鴫田美奈子, 武下佳代, 荻田明子, 松山妙子, 三浦由紀子, 小川賀恵, 宍戸路佳, 岩渕起江, 内田貴峰, 福田敦子, 高見沢愛弓, 看護系大学と連携実習施設とのシームレスな教育連携の検討—教育と臨床をつなぐ教育体制構築に向けた取り組み—, 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9 日, 山口県下関市.
- 鈴木里美, 北得美佐子, 藤村朗子, 北端恵子, 宇田賀津, 納谷和誠, 山田修平, 堀田省吾, 松山妙子, 小川賀恵, 宍戸路佳, 三浦由紀子, 荻田明子, 片岡大己, 岩渕起江, 吉田亜希子, 演習・実習記録の電子化による教育 DX/ICT 推進・学修の可視化, 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月 9 日, 山口県下関市.
- 岩渕起江, 櫻井敬子. 急性期病院における認知症高齢者の退院支援に関する研究の動向. 第 17 回慢性看護学会学術集会, 2023 年 9 月 2 日, 山梨県甲府市.

4. 研究助成および研究成果報告書

特になし

5. 社会貢献(学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

岩渕起江

- 1) 臨床と研究をつなぐティーサロン. 日本エンドオブライフケア学会第 6 回学術集会. 2023 年 9 月 16 日.
- 2) 特別講義高齢者施設体験学習. 明治薬科大学特別講義. 2023 年 9 月 21 日.
- 3) 認知症の方とのコミュニケーション講座. 立川市西砂学習館. 2024 年 2 月 7 日.
- 4) 日本エンドオブライフケア学会の研究活動推進委員会: 研究知見の整理ワーキング委員.
- 5) 立川市西砂学習館内立川市一番町傾聴クラブ顧問

岩渕起江, 廣畑梓

にんカフェボランティア. 認知症カフェに参加した対象者へのレクリエーション. 2024 年 3 月 9 日.

6. その他

特になし